

時代が求める新たな教養教育

京都三大学教養教育共同化事業

令和7年度 報告書



京都工芸繊維大学



京都府立大学



京都府立医科大学

目次

ごあいさつ

京都府立大学	学長・副学長あいさつ、大学紹介	2
京都工芸繊維大学	学長・副学長あいさつ、大学紹介	3
京都府立医科大学	学長・副学長あいさつ、大学紹介	4

第1部 教養教育共同化の展開

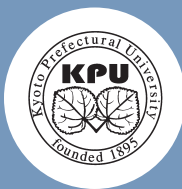
(1) 令和7年度三大学教養教育共同化の取組	5
(2) 令和7年度の教育 IR センターからの報告	12
①クォーター科目の検証	12
②共同化科目担当者会議	16
③令和7年度アンケート結果	18
(3) 令和7年度のリベラルアーツセンターからの報告	20

第2部 共同化科目の授業研究

(1) 医学部生と非医学部生の学び合いの場を創る意義（科目名：医療人類学）	22
(2) 京の聖地・霊地をいろどる説話伝承をよむ（科目名：京都の文学Ⅱ）	23
(3) 「京都の文化と文化財」～日々の生活を楽しむ～	25
(4) 体験し、悩み、そして発見する「こころの科学」：講義室を大きな実験室に変える試み	28

資料編

(1) 会議の審議状況	30
(2) 京都三大学教養教育研究・推進機構 授業アンケート	31
(3) 京都三大学教養教育研究・推進機構 クォーター科目アンケート	32



京都府立大学

京都府立大学は、京都府簡易農学校を起源とし、2025（令和7）年に創立130周年を迎えた伝統ある総合大学です。令和6年度に学部再編を行い、5学部12学科の体制を整えました。文学・社会科学から農学、生命理工、環境科学まで、多様な学びが一つのキャンパスに集う「文理融合」を特徴とし、教員と学生の距離が近い教育環境の中で、質の高い教育を実現しています。教養教育については、平成26年度に全国で初めて、京都府立医科大学、京都工芸繊維大学との共同化を開始し、教養教育共同化施設「稻盛記念会館」で三大学の学生が共に学び、多様な交流が促進されています。

今後とも、産学公民一体の知の創造拠点を目指すとともに京都の文化・産業の振興・発展に貢献する人材育成を図り、地域貢献型の教育研究の推進、産学公連携による共同研究等の強化など多様な連携・交流活動を展開していきます。



学長あいさつ

京都府立大学学長
塚本 康浩



京都らしい教養教育とは？

新型コロナウイルス感染症を経験し、現在、私たちは対面式、オンライン、ハイブリッド、オンデマンドの講義を組み合わせて行うことができています。私は2020年4月から京都府立大学の学長を務めて居ますが、「生命科学講話」の講義も引き続き担当しています。この講義には600名以上が登録しており、全講義をオンデマンド形式で提供しました。受講生の皆さんは、パソコンやスマートフォンを通じて、自宅だけでなく様々な場所で学んでいることでしょうか。講義は、文字を大きくして量を控えめにし、動画を多用してわかりやすくしました。おそらく、家でリラックスしながら、あるいは同級生と一緒に大きなスクリーンで受講している方もいるかもしれません。教員一同は、より良い講義のために、資料作りに尽力しています。時間に縛られず、理解度が高く、極めて興味深い講義が、三大学の連携によって実現されることを期待しています。

京都の三大学による共同教育プログラムでは、京都独自の文化や歴史、ユニークな企業に触れることができる講義も豊富にあります。理系や文系という枠組みとは関係なく皆さんの心に「京都」の精神が根付き、将来どこかでその知識が役立つことを楽しみにしています。知らぬ間に皆さんそれぞれに「京都らしさ」が宿ると思います。

副学長あいさつ

京都府立大学副学長
京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員長
山口 美知代

AI時代の外国語教育について

京都三大学教養教育研究・推進機構運営委員会では、三大学の副学長をはじめとする委員の方々、また席席の職員の方々に出席いただき、運営を協議しながら進めております。ご多忙なかでの活発な参加があり、またそれに至るまでの入念な準備・打ち合わせをいただいていることに、感謝申し上げます。

さて、今年度のFD研修ではAIについて取り上げられましたので、簡単に自分の専門である英語学・英語教育について、AI時代の展望を述べたいと思います。

AI時代の外国語教育においては、身体的属性の強い機能一つまり、理解可能な外国語を自分の口から発するという機能、自分の耳で外国語を理解し即時に反応するという機能が、より重視されることになると考えます。機械翻訳を通してのコミュニケーションは目覚ましい発展を遂げていますが、その瞬時性にはまだ限界があり、コミュニケーションの属人性・身体性に目を向けたときに、自分の声、自分の言葉で相手とコミュニケーションを即時に図れることの価値は、AIが広がっても、希少性を高めるのではないのでしょうか。また、読み書きにおける文体調整についても、まだまだ話し手による調整の余地は残っていると考えます。文法的正確さがAIによって担保され、文体調整もかなり対応されるようになっていますが、文体の指示を出し、その可否を伝えるのはAIを使う話し手にあると考えます。

以上は自分の専門領域における話ですが、三大学教養教育研究・推進機構運営においては、各分野での知見で総合的に教育が進むよう、努めて参りたいと考えています。



京都工芸繊維大学

KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY、京都工芸繊維大学は、1902年に設立された京都高等工芸学校及び1899年に設立された京都蚕業講習所に端を発し、1949年に新制大学として発足しました。以来、120余年にわたり日本の産業、社会、文化に貢献する人材を輩出してきました。歴史文化都市である京都は、1200年を超える「みやこ」として、常に新しい「もの」を創出し、革新的な技術を生み出し、磨きをかけ、国内外の信用を得てきました。この創造的挑戦心を育んできた京都という場のもつ力を、工芸科学（人に優しい工学、科学の展開）の研究・教育に活かし実践する、これこそが本学のミッションであり、「京都思考（KYOTO Thinking）」と呼ぶものです。



学長あいさつ

京都工芸繊維大学学長

吉本 昌広



工科系大学である本学は、幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力、リーダーシップをもって、これからの産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工系専門技術者を養成しています。この様な理工系専門技術者を本学ではTECH LEADERと名付けています。

TECH LEADERとなるために、「専門力」、「リーダーシップ」、「外国語運用能力」の3つの能力を身につけるとともに、「個の確立」を期待しています。「個の確立」とは、多様化する社会の中でも揺るがない個を有していることを意味し、教養教育と深く結びついています。

人類が築いてきた社会や文化について学び、生まれ育った国や地域の伝統文化・習慣や歴史を知り、社会全体の多様性と包摂について理解を深めることは、まだ見ぬこれからの産業、社会、文化に貢献する意欲や方法論を身につけることにつながります。教養教育はTECH LEADER養成の核となるものです。

三大学教養教育共同化事業は、工科系大学が単独では成しえない、幅広い教養教育を進める場として、本学にとって貴重な役割を果たしています。これまでの成果を振り返りつつ、本事業がさらに進化していくことを期待しています。

副学長あいさつ

京都工芸繊維大学理事・副学長
京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員

堀内 淳一

本学の前身校の一つである京都高等工芸学校初代校長の中澤岩太は、開校挨拶において教育の方針として「十分な学理を備え、さらにその応用・実技」を担う人材の育成を目指すと述べています。それ以来本学は120年以上にわたり、この「学理と応用」を教育の根幹として、いつの時代もその時代の主要産業のモノづくりを担う高度技術人材の育成を使命としてきました。現在は人材育成の目標を「専門分野の学理と応用力を基盤として、グローバルな環境でリーダーシップを発揮してプロジェクトを成功に導く人材（TECH LEADER）の育成」と定めています。現代の高度技術者は、激変する社会ニーズや地球環境問題などの複雑な課題の解決に、イノベーションを通じて的確に貢献する能力が求められています。そのような技術人材に不可欠な幅広い視野や活発な問題意識は、多彩なリベラルアーツ教育や異分野・異文化との交流、異なる視点や価値観を持つ人との対話により培われていきます。そのような教育の場として、三大学の学生が交流し、異分野の知に触れるこの三大学教養教育共同化事業はまさに最適な場であり、本学にとり極めて重要な意義があります。今後とも微力ながら本事業の発展と深化に尽力していきたいと思っております。



京都府立医科大学

京都府立医科大学は、1872（明治5）年に粟田口青蓮院に開設された京都療病院における西洋式の医療と医学教育を始まりとする、我が国で最も古い大学の一つです。

本学では、歴史と実績に裏打ちされた多様な学際的研究活動を推進し、地域・社会に貢献するとともに、質の高い医学・医療と高い倫理観を身につけ、患者に寄り添った医療を行う優れた医療人を輩出しています。

また、京都府民に開かれた公立大学として、大学の理念「世界トップレベルの医学を地域へ」のもと、最先端の研究成果を社会実装し、いち早く患者さんにお届けする取組や、感染症対策・健康増進への寄与など、大学での研究成果を府民に還元すると共に、地域医療への理解と使命感を持った医療人を確保・育成しています。



学長あいさつ

京都府立医科大学学長

夜久 均



日本の医学教育においては、6年間の教育プログラムがかなり窮屈になっています。医学・医療の進歩に伴い、医学学修者が学ぶべき項目が次第に増加し、また米国臨床許可を得るために米国ECFMGが求めていた（現在は必須ではない）72週の臨床実習をカリキュラムに盛り込んできました。従いまして、医学教育のカリキュラムが前倒しになり、いわゆる教養教育の期間がかなり短縮を余儀なくされています。一方、将来の医療を担う医師・看護師は、医学・医療の知識や技術だけでなく、課題解決能力、多様性、協調性、人間力等が要求され、幅広い範囲の教養教育での学修が求められています。

そのような医学教育の状況の中で、この三大学教養教育共同化事業は、医系単科大学だけでは提供できない約80に及ぶ様々な分野の科目を自由に選択することができ、短期間であっても有意義な教養教育であることを期待します。この事業も開始以来10年を経て、現時点での教育成果を評価し、必要であれば改変し、さらに有効な教育の機会にするべく見直す必要があるかとも思います。患者さんの高齢化が進む一方、医療技術がどんどん進む中で、患者さんが安心して医療を受けていただくためにも、幅広い寛容な人間性を持つ医師、看護師が育つための一つのツールとしてこの事業が有用であることを切に望みます。

副学長あいさつ

京都府立医科大学副学長
京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員

橋本 直哉

三大学教養教育共同化事業は、文部科学省の支援を得て平成26年度に開始された教育プログラムに端を発し、平成29年度からは京都工芸繊維大学、京都府立大学及び京都府立医科大学の共同予算により運営、全国に先駆ける大学間連携のモデル事業として、質の高い教育を展開しています。

専門性の高い単科大学では、所属する学生は専門領域のなかに閉じこもりがちですが、本学では三大学教養教育共同化事業によって、学生が三大学の特長ある講義科目を幅広く選択・受講できるだけでなく、リベラルアーツゼミナール科目の受講を通じ、専攻や学修目標の異なる様々な学生と交流できるという大きな恩恵を受けています。学生さんには、このような機会を最大限に活用して積極的に交流し、豊かな人間性と幅広い教養を身につけるとともに、本格的な医学教育への準備を万全にしてほしいと思います。また、学修内容を提供する立場からは、人類にとって不可欠である医学・医療とその周辺領域の内容を最新トピックスも含めて供出し、将来の人材育成、産学連携に繋いでいければと願っています。

三大学教養教育研究・推進機構では、委員長と各大学からの運営委員が力を合わせて、このユニークな学びのかたちを維持・発展させてきました。これからも安全性と学習効果の両者を保ちつつ、機動性をもって共同化授業を展開していきたいと考えます。

(1) 令和7年度三大学教養教育共同化の取組

【共同化教養教育等の概要】

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学による共同化授業は、平成26年4月に始められ、令和7年度に12年目に入った。

三大学での共同化教養教育は、個々には規模が小さく、各大学で提供できる科目に限りがあるため、各大学の強みと特徴を生かした教養科目を相互に提供し、提供されたすべての科目を各大学が自大学の科目とすることによって、学生の科目選択の幅を大きく増やし、学修意欲を高めようとするものである。

文系、理工系、医学系の専門分野や将来の志望が異なる三大学の学生が授業で混在し、多様な視点や価値観を持つ学生と一緒に学び交流することを通じ、豊かな人間性の形成に資することもねらいとしている。稲盛和夫氏から多大なご寄付をいただき、平成26年に京都府立大学下鴨キャンパス内に教養教育共同化施設「稲盛記念会館」が整備された。同年の後期授業からは、同施設が教養教育の拠点となり、学生間交流に大きく寄与している。

今年度も三大学で協議の上、共通の Semester 制の学年暦を定め、前期は4月14日(月)から8月4日(月)(試験日を含む)、後期は9月29日(月)から1月26日(月)(試験日を含む)とし、毎週月曜日に開講した。なお、一部科目については、試行的にクォーター制で実施した。

共同化開始当初から開講していた3～5コースに加え、平成

29年度から開始した月曜日午前の共同化授業も引き続き5科目開講した。

また、授業は主に対面形式で実施されたが、各授業の内容や特性を考慮に入れ、一部の授業ではオンライン形式も採用された。

【令和7年度共同化カリキュラムの概要】

令和7年度は、共同化科目として79科目を開講した。提供科目数は、共同化開始年度である平成26年度と比べると11科目の増となる。この結果、共同化開始前に比べ学生の科目選択幅は、各大学により異なるものの、2.4倍～5.2倍に大きく拡大した。

科目群別では、「人間と文化」30科目、「人間と社会」25科目、「人間と自然」24科目と、諸分野をバランスよく提供することに努めた。

共同化事業開始当初から取り組んでいる「京都学」科目は、14科目開講した。京都工芸繊維大学が2科目、京都府立大学が8科目、機構が4科目担当し、各大学の専門性を生かしつつ多様な「京都学」科目を提供した。

また、少人数で学生同士が交流し、共通のテーマで対話し議論する力を育むことをねらいとした「リベラルアーツ・ゼミナール」は、14科目開講した。考え方や学び方の基礎力を培う授業やグローバルな視野を広げる集中講義、アクティブラー

【学年暦】
■ Semester 制 ⑦76科目
■ クォーター制 ⑦3科目(6科目) ・科学史(1.2Q) ・人と自然と数学α(1.2Q) ・医学概論(3.4Q)

【科目構成】	
■ 人間と文化 ⑦30科目 人間と歴史、文化・芸術	京都学 リベラルアーツ・ゼミナール 文理融合的視点を含む科目
■ 人間と社会 ⑦25科目 社会科学の基礎、人間と社会	
■ 人間と自然 ⑦24科目 自然科学の基礎、人間と自然科学	

ニングを取り入れたゼミナールなど、多彩な内容を提供している。

学び続ける教養教育の一環で、平成27年度から取り組んでいる上回生を対象とした高度教養教育科目については5科目、語学・異文化理解科目についても7科目を開講した。

また、近年の国の動向等を踏まえ、79科目のうち、18科目については、文系、理系という学問的区分にとらわれず領域横断的な知識を修得させようとする視点を踏まえた授業を展開した。

(履修登録の状況)

令和7年度前期の共同化科目は47科目で、提供大学別内訳は、京都工芸繊維大学が16科目、京都府立大学が14科目、京都府立医科大学が6科目、機構が11科目である。

学生の履修登録の状況は、別表「三大学教養教育共同化科目の履修登録者（2025年度前期）」のとおりである。履修登録者総数が4,848人で、大学別では、京都工芸繊維大学が2,614人、京都府立大学が1,655人、京都府立医科大学が579人である。三大学学生の交流状況を示す自大学以外の科目を履修登録した学生（機構提供科目履修者を除く）は2,129人であり、履修登録者総数（機構提供科目履修者を除く）4,459人に占める割合は47.7%であった。

次に、後期の共同化科目は32科目で、提供大学別内訳は、京都工芸繊維大学が13科目、京都府立大学が9科目、京都府立医科大学が5科目、機構から5科目である。

学生の履修登録の状況は、別表「三大学教養教育共同化科目の履修登録者（2025年度後期）」のとおりである。履修登録者総数が2,189人で、大学別では、京都工芸繊維大学が823人、京都

府立大学が1,237人、京都府立医科大学が129人である。三大学学生の交流状況を示す自大学以外の科目を履修登録した学生（機構提供科目履修者を除く）は907人であり、履修登録者総数（機構提供科目履修者を除く）2,006人に占める割合は45.2%であった。

これらの結果、前期と後期を合わせた通年での履修者総数は7,037人で、前年度に比べ301人減少（△4.1%）した。

大学別では、京都工芸繊維大学が3,437人、対前年126人の減少（△3.5%）。京都府立大学が2,892人、対前年210人の減少（△6.8%）。京都府立医科大学が708人、対前年で35人増加（+5.2%）という結果であった。



また、自大学以外の科目を履修登録した学生（機構提供科目履修者を除く）は3,036人であり、履修登録者総数（機構提供科目履修者を除く）6,465人に占める割合として通年で三大学学生の交流状況を示す交流率は47.0%で、三大学の交流が完全に均等である50%よりやや低い状況であった。

なお、今年度は科目定員に対する履修者数の割合である履修率（通年履修率）は76.3%であったが、前期の86.5%に比べ、後期の登録が60.4%と少なくなっている。教養教育共同化科目は、稲盛記念会館における教室のリソースを考

慮した上で前期と後期に分けて科目を提供しているため、学生が前期と後期のバランスを考慮した履修計画を立てられるよう各大学においてもサポートしていく必要がある。

(履修定員調整)

教養教育共同化施設の整備に当たっては、マスプロ教育を避けるために教室規模を最大200人程度とされたこともあり、科目ごとにあらかじめ履修定員を設定の上、授業を実施することとしている。そのため、各科目において大学ごとに定員の配分を行い、定員を超える履修希望があった場合は抽選としている。配分に当たっては、まずは、科目定員の半数を科目提供大学が、残りの半数をその他2校で1年生の学年定員数に応じ配分することを原則としている。その上で、学生の履修希望を受け付け、科目ごとに各大学の履修希望数を集約し配分している。

なお、定員に余剰が生じた大学があった場合には、その余剰分を他の大学に再配分を行うことにより、可能な限り学生の履修希望にかなった定員配分となるように調整を行った。

(学生への受講ガイダンス)

共同化授業の取組について、受講する学生にわかりやすく周知を図るため、三大学共通のガイダンス冊子「京都三大学教養教育共同化科目受講案内」を作成した。

冊子には、この1冊があればスムーズに共同化授業が受講できるよう、共同化の理念・目的をはじめ、共同化科目の履修方法、共同化科目一覧、前・後期ごとの各科目の履修定員、科目概要、開講時間割などを掲載した。科目概要には、科目の説明だけでなく、当該科目担当教員の授業に対す

る姿勢や思いを学生へのメッセージとして、授業目的区分とともに掲載した。学生へは、各大学で実施される新入生履修ガイダンス時に、関連冊子の配布と説明を行った。



【受講案内（令和7年度）】

(その他の取組)

令和5年度の「京都の経済」（共同化授業開始10年記念特別講義）、令和6年度の「京都の防災と府民」に続き、令和7年度は「京都の文化と文化財」の授業の一部を公開講座として実施した。

学生・府民約130人が参加し好評のうちに幕を閉じたところであり、今後も、このような取組を通じて、学生に魅力的な講義を提供するとともに、京都三大学の教育活動に対する理解や支援を広げるための取組を目指していく予定である。

令和7年度 共同化科目一覧

【授業目的区分】(○は該当するもの、◎は特に強調するもの)

A: 人文・社会・自然の諸分野から、各大学の教育課程の編成方針を踏まえ学生自ら科目を選択し学ぶことにより、幅広い知識と総合的な判断力に基づく教養を培う。

B: 世界の人々の多様な生き方を感じ、人としての豊かな感性や倫理観を高める。

C: 社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探索する議論に習熟する。また、多様な価値観を持つ人材が集まることにより新たな価値創造に向けた議論に習熟する。

【文理融合科目】(○は該当するもの、◎は特に強調するもの)

文系学問と理系学問の両方を横断的に学ぶ科目、またそれにより学修の幅を広げることをねらいとする科目

科目群	文理融合科目	科目名	担当教員	開講期	授業目的区分		
					A	B	C
人間と文化(30科目)	人間と歴史	哲学	工 藤田 尚志	後	○	○	
		比較宗教学	工 梅田 勇樹	前	○	○	
		宗教と文化	医 竹貴 友佳子	後	○	○	
		日本史	工 浅井 雅	後	○		
		東西文化交流史	工 旗手 暉	後	◎	○	
		アジアの歴史と文化	府 井上 直樹	前	○	○	
		ヨーロッパの歴史と文化	府 阿部 拓児 ほか	後	◎	○	
		◎ 科学技術の人間学	工 秋富 克哉	後	◎	○	○
		ラテン語	医 松本 加奈子	後	○	○	
		西洋文化論	工 山下 太郎	後	○	○	
	文化・芸術	○ 日本近現代文学	工 高木 彬	後	○	○	
		西洋文学論	工 山下 大吾	前	◎	○	
		美と芸術	工 松木 理悠	前	◎	○	○
		日本近代精神史	工 藤田 尚志	前	○	○	
		フランス語圏の文化とジャポニスム(※2回生以上)	工 吉川 順子	前(午前)	○	○	
		映画で学ぶ英語と文化(※3回生以上)	府 西谷 茉莉子	後(午前)	◎		
		映画で学ぶドイツ語と文化(※3回生以上)	府 ボルドゥニャク エドワルド	前(午前)	◎		
		医療人類学	医 竹田 響	前	○	◎	○
		○ 認知心理学	医 村上 善至	前	○	○	
		京都の歴史Ⅰ	府 横内 裕人 ほか	前	○	○	
	京都学	京都の歴史Ⅱ	府 藤本 仁文 ほか	後	○	○	
		京都の文学Ⅰ	府 大塚 誠也	前	○	○	
		京都の文学Ⅱ	府 本井 敦子	後	○	○	
		京の意匠	工 山本 史 ほか	後	○	○	○
		英語で京都(※3回生以上)	府 山口 エレノア	後(午前)	◎	○	
		資料で京都(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 藤本 仁文 ほか	集中・夏	○	○	
	リベラルアーツ・ゼミナール	京都の文化と文化財	機 宗田 好史 ほか	後	○	○	
		現代イスラーム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 黒田 賢治	集中・夏	◎	○	
		感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 桑子 敏雄	集中・夏	○	○	
		資料で京都(リベラルアーツ・ゼミナール)(再掲)	機 藤本 仁文 ほか	集中・夏	○	○	
○ 現代正義論(リベラルアーツ・ゼミナール)	医 瀬戸山 晃一 ほか	後	○	○	◎		
人間と社会(24科目)	社会科学の基礎	社会学Ⅰ	府 田島 知之	前	○	○	○
		社会学Ⅱ	府 中谷 勇哉	後	○	○	◎
		政治学	工 西村 真彦	後	○	○	○
		国際政治	府 宮脇 聖 ほか	前	◎	○	○
		経済学入門	工 人見 光太郎	後	◎		
		医療と社会	医 笠井 敬太	前	○		
	人間と社会	法学	工 上本 翔大	前	○		
		生活と経済	府 小沢 修司	後	○	○	
		こころの科学	工 西崎 友規子 ほか	前	○		
		発達心理学	医 上條 史絵	集中・夏	○	○	
		現代社会と心	府 石田 正浩	後	○	○	
		○ 現代社会とジェンダー	府 瀧本 知加 ほか	前	○	◎	○
	京都学	現代教育論	工 未岡 加奈子	前	○	○	
		環境と法	工 吉川 聡美	後	○		
		◎ 現代医療の人間観	医 杉岡 良彦	後	◎	○	○
		食ブランド論	府 平本 毅	前	○		
		京の産業技術史	工 畑 智子	前	○	○	
		現代京都論	府 大島 祥子	前	○	○	
	リベラルアーツ・ゼミナール	京都学講座(人間と社会)	機 小沢 修司 ほか	前	◎	○	
		◎ 現代社会に学ぶ問う力・書く力(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 杉山 東洋	前	○	◎	
		◎ 社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 杉山 東洋	後	◎	○	
		◎ 世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 榎原 美樹	集中・夏	◎	○	
		◎ 時事問題で学ぶファンリテーション(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 居神 浩	集中・夏	○	◎	
		◎ マーケティング入門(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	機 児玉 英明	前	◎	○	
◎ プレゼンテーション力とは(リベラルアーツ・ゼミナール)		機 榎原 美樹	後	○	◎	○	

科目群	文理融合科目	科目名	担当教員	開講期	授業目的区分			
					A	B	C	
人間と自然 (27科目)	自然科学の基礎	物理学Ⅰ	府 安田 啓介	前	○			
		化学概論Ⅰ	工 田嶋 邦彦	前	○			
		化学概論Ⅱ	工 角野 広平	後	○			
		生物学概論Ⅰ	工 疋田 努	前	○			
		生物学概論Ⅱ	工 疋田 努	後	○			
	人間と自然・科学	生命科学講話	府 塚本 康浩 ほか	集中・夏	○	○		
		人と自然と数学αⅠ(1Q)	工 峯 拓矢	前(1Q)	○	○		
		人と自然と数学αⅡ(2Q)	工 峯 拓矢	前(2Q)	○	○	○	
		生物学的人間学	医 後藤 仁志 ほか	前	○			
		○ 科学史Ⅰ(1Q)	工 中条 大聖	前(1Q)	○	○		
		○ 科学史Ⅱ(2Q)	工 中条 大聖	前(2Q)	○	○		
		○ 環境問題と持続可能な社会	工 山田 悦	前	○	○		
		○ 食と健康の科学	府 小林 ゆき子 ほか	前	○	○		
		○ キャンパスヘルス概論	工 牛込 恵美	前	○	○	○	
		○ エネルギー科学	工 林 康明	前	○	○	○	
		○ 現代科学と倫理	府 岩崎 蒙人	前	○			
		○ 医学概論Ⅰ(3Q)	医 橋本 直哉 ほか	後	○	○		
		○ 医学概論Ⅱ(4Q)	医 橋本 直哉 ほか	後	○	○	○	
		○ やさしい看護学(※工織大生・府大生対象)	医 内海 桃絵 ほか	集中・夏	○			
		○ 光と色彩のサイエンス	機 石田 昭人	前	○			
	京都学	○ 京都の農林業	府 中村 貴子 ほか	後	○			
		○ 京都の防災と府民	機 田淵 敦士 ほか	後	○	○		
		○ 京都の自然(注)	府 平山 貴美子 ほか	前	○			
	リベラルアーツ・ゼミナール	○ 製品の機能から科学を学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 石田 昭人	前	○	○		
		○ 意外と知らない植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 松谷 茂 ほか	後	○	○	○	
		○ レーザで測る、創る、楽しむ(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 播磨 弘	前	○	○		
			人と自然と数学β(リベラルアーツ・ゼミナール)	工 磯崎 泰樹	後	○	○	
	合計 82 科目							
	(再掲) リベラルアーツ・ゼミナール (14科目)	集中開講	○ 現代正義論(リベラルアーツ・ゼミナール)	医 瀬戸山 晃一 ほか	後	○	○	○
			○ 現代社会に学ぶ問う力・書く力(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 杉山 東洋	前		○	○
			○ 社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 杉山 東洋	後		○	○
			○ マーケティング入門(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	機 児玉 英明	前(午前)	○		○
○ プレゼンテーション力とは(リベラルアーツ・ゼミナール)			機 櫻原 美樹	後	○	○	○	
○ 製品の機能から科学を学ぶ(リベラルアーツ・ゼミナール)			機 石田 昭人	前	○	○	○	
○ 意外と知らない植物の世界(リベラルアーツ・ゼミナール)			機 松谷 茂 ほか	後	○	○	○	
○ レーザで測る、創る、楽しむ(リベラルアーツ・ゼミナール)			機 播磨 弘	前	○	○	○	
○ 人と自然と数学β(リベラルアーツ・ゼミナール)			工 磯崎 泰樹	後			○	
○ 現代イスラム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)			機 黒田 賢治	集中・夏		○	○	
○ 感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)		機 梶 敏雄	集中・夏		○	○		
○ 資料で京都(リベラルアーツ・ゼミナール)		機 藤本 仁文 ほか	集中・夏		○	○		
○ 世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)		機 櫻原 美樹	集中・夏		○	○		
○ 時事問題で学ぶファシリテーション(リベラルアーツ・ゼミナール)		機 居神 浩	集中・夏		○	○		
(再掲) 京 都 学 (14科目)	京都の歴史Ⅰ	府 横内 裕人 ほか	前	○	○			
	京都の歴史Ⅱ	府 藤本 仁文 ほか	後	○	○			
	京都の文学Ⅰ	府 大塚 誠也	前	○	○			
	京都の文学Ⅱ	府 本井 牧子	後	○	○			
	京の意匠	工 山本 史 ほか	後	○	○	○		
	英語で京都(※3回生以上)	府 山口 エレノア	後(午前)		○	○		
	資料で京都(リベラルアーツ・ゼミナール)	機 藤本 仁文 ほか	集中・夏		○	○		
	京都の文化と文化財	機 宗田 好史 ほか	後	○	○			
	京の産業技術史	工 畑 智子	前	○	○			
	現代京都論	府 大島 祥子	前	○				
	京都学講座(人間と社会)	機 小沢 修司 ほか	前	○	○	○		
	京都の農林業	府 中村 貴子 ほか	後	○				
	京都の防災と府民	機 田淵 敦士 ほか	後	○	○	○		
	京都の自然(注)	府 平山 貴美子 ほか	前	○				
(再掲) 2回生以上向け開講 (5科目)	○ フランス語圏の文化とジャポニスム(※2回生以上)	工 吉川 順子	前(午前)	○	○			
	○ 映画で学ぶ英語と文化(※3回生以上)	府 西谷 茉莉子	後(午前)		○	○		
	○ 映画で学ぶドイツ語と文化(※3回生以上)	府 ボルドゥニャク エドワルド	前(午前)		○	○		
	○ 英語で京都(※3回生以上)	府 山口 エレノア	後(午前)		○	○		
	○ マーケティング入門(リベラルアーツ・ゼミナール)(※2回生以上)	機 児玉 英明	前(午前)	○		○		

注：今年度開講の「京都の自然」は、内容が重複するため令和元年度まで開講の「京都の自然と森林」を履修した学生は履修することができません。
担当教員(それぞれの略称は、科目の提供大学・機関を示します。)

工：京都工芸繊維大学、府：京都府立大学、医：京都府立医科大学、機：京都三大学教養教育研究・推進機構

三大学教養教育共同化科目の履修登録者（2025年度前期）

	提供大学	開講コース	科目名	履修定員	履修者数				交流率	履修率
					工織大	府大	医大	合計		
1	工織大	月2	フランス語圏の文化とジャポニスム（※2回生以上）	30	21	7	0	28	25.0%	93.3%
2	府大	月2	映画で学ぶドイツ語と文化（※3回生以上）	30	21	8	0	29	72.4%	96.7%
3	機構	月2	マーケティング入門（リベラルアーツ・ゼミナル）（※2回生以上）	30	21	1	0	22	100.0%	73.3%
4	工織大	月3	美と芸術	174	111	42	20	173	35.8%	99.4%
5	工織大	月3	法学	99	15	14	5	34	55.9%	34.3%
6	工織大	月3	現代教育論	99	43	12	15	70	38.6%	70.7%
7	工織大	月3	化学概論Ⅰ	99	68	15	6	89	23.6%	89.9%
8	工織大	月3	科学史	120	74	7	0	81	8.6%	67.5%
9	工織大	月3	環境問題と持続可能な社会	99	49	33	16	98	50.0%	99.0%
10	府大	月3	京都の歴史Ⅰ	299	122	115	37	274	58.0%	91.6%
11	府大	月3	社会学Ⅰ	196	74	99	22	195	49.2%	99.5%
12	府大	月3	現代京都論	174	66	90	12	168	46.4%	96.6%
13	府大	月3	物理学Ⅰ	99	86	5	8	99	94.9%	100.0%
14	医大	月3	認知心理学	120	46	20	30	96	68.8%	80.0%
15	機構	月3	製品の機能から科学を学ぶ（リベラルアーツ・ゼミナル）	30	16	4	10	30	100.0%	100.0%
16	工織大	月4	日本近代精神史	99	34	33	0	67	49.3%	67.7%
17	工織大	月4	京の産業技術史	120	64	43	12	119	46.2%	99.2%
18	工織大	月4	人と自然と数学α	174	161	3	7	171	5.8%	98.3%
19	工織大	月4	キャンパスヘルス概論	196	108	74	13	195	44.6%	99.5%
20	府大	月4	京都の文学Ⅰ	120	26	85	7	118	28.0%	98.3%
21	府大	月4	食と健康の科学	99	33	58	6	97	40.2%	98.0%
22	医大	月4	医療人類学	99	13	11	28	52	46.2%	52.5%
23	医大	月4	医療と社会	120	45	59	15	119	87.4%	99.2%
24	医大	月4	生物学的人間学	204	81	22	79	182	56.6%	89.2%
25	機構	月4	京都学講座（人間と社会）	99	29	48	0	77	100.0%	77.8%
26	機構	月4	光と色彩のサイエンス	99	73	14	6	93	100.0%	93.9%
27	機構	月4	レーザで測る、創る、楽しむ（リベラルアーツ・ゼミナル）	30	16	7	4	27	100.0%	90.0%
28	工織大	月5	比較宗教学	120	77	26	10	113	31.9%	94.2%
29	工織大	月5	西洋文学論	99	7	13	1	21	66.7%	21.2%
30	工織大	月5	こころの科学	174	112	43	18	173	35.3%	99.4%
31	工織大	月5	生物学概論Ⅰ	174	72	27	16	115	37.4%	66.1%
32	工織大	月5	エネルギー科学	120	111	3	4	118	5.9%	98.3%
33	府大	月5	アジアの歴史と文化	99	22	23	8	53	56.6%	53.5%
34	府大	月5	国際政治	99	29	17	2	48	64.6%	48.5%
35	府大	月5	現代社会とジェンダー	120	34	54	7	95	43.2%	79.2%
36	府大	月5	食ブランディング論	196	111	65	18	194	66.5%	99.0%
37	府大	月5	現代科学と倫理	99	7	1	0	8	87.5%	8.1%
38	府大	月5	京都の自然	196	119	66	7	192	65.6%	98.0%
39	機構	月5	現代社会に学ぶ問う力・書く力（リベラルアーツ・ゼミナル）	30	0	4	1	5	100.0%	16.7%
40	府大	集中	生命科学講話	660	271	331	56	658	49.7%	99.7%
41	医大	集中	発達心理学	99	51	12	34	97	64.9%	98.0%
42	医大	集中	やさしい看護学	20	12	8	0	20	100.0%	100.0%
43	機構	集中	現代イスラム世界の文化と社会（リベラルアーツ・ゼミナル）	30	9	10	9	28	100.0%	93.3%
44	機構	集中	感性の実践哲学（リベラルアーツ・ゼミナル）	30	14	5	10	29	100.0%	96.7%
45	機構	集中	資料で京都（リベラルアーツ・ゼミナル）	20	10	5	5	20	100.0%	100.0%
46	機構	集中	世界はいま（リベラルアーツ・ゼミナル）	30	10	9	10	29	100.0%	96.7%
47	機構	集中	時事問題で学ぶファシリテーション（リベラルアーツ・ゼミナル）	30	20	4	5	29	100.0%	96.7%
			合計	5,602	2,614	1,655	579	4,848	47.7%	86.5%

(注) 交流率：科目提供大学以外の大学の履修者数をその科目の全履修者数で割った値。

クォーター科目の内訳

提供大学	開講コース	科目名	履修定員	履修者数				交流率	履修率
				工織大	府大	医大	合計		
工織大	月3	科学史Ⅰ（1Q）	120	74	7	0	81	8.6%	67.5%
工織大	月3	科学史Ⅱ（2Q）	120	71	7	0	78	9.0%	65.0%
工織大	月4	人と自然と数学αⅠ（1Q）	174	161	3	7	171	5.8%	98.3%
工織大	月4	人と自然と数学αⅡ（2Q）	174	159	3	6	168	5.4%	96.6%

三大学教養教育共同化科目の履修登録者（2025年度後期）

	提供大学	開講コース	科目名	履修定員	履修者数				交流率	履修率
					工織大	府大	医大	合計		
1	府大	月2	映画で学ぶ英語と文化（※3回生以上）	30	19	8	0	27	70.4%	90.0%
2	府大	月2	英語で京都（※3回生以上）	30	5	1	0	6	83.3%	20.0%
3	工織大	月3	哲学	99	16	10	2	28	42.9%	28.3%
4	工織大	月3	東西文化交流史	174	62	109	3	174	64.4%	100.0%
5	工織大	月3	日本近現代文学	196	103	85	7	195	47.2%	99.5%
6	工織大	月3	政治学	99	31	22	7	60	48.3%	60.6%
7	府大	月3	京都の歴史Ⅱ	299	20	67	21	108	38.0%	36.1%
8	府大	月3	社会学Ⅱ	120	25	91	3	119	23.5%	99.2%
9	医大	月3	ラテン語	120	25	36	3	64	95.3%	53.3%
10	医大	月3	医学概論	99	6	18	14	38	63.2%	38.4%
11	機構	月3	意外と知らない植物の世界（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	12	14	4	30	100.0%	100.0%
12	工織大	月4	日本史	120	29	61	2	92	68.5%	76.7%
13	工織大	月4	科学技術の人間学	99	12	4	2	18	33.3%	18.2%
14	工織大	月4	環境と法	99	34	17	2	53	35.8%	53.5%
15	工織大	月4	人と自然と数学β（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	3	0	1	4	25.0%	13.3%
16	府大	月4	ヨーロッパの歴史と文化	196	79	108	4	191	43.5%	97.4%
17	府大	月4	京都の文学Ⅱ	99	9	74	2	85	12.9%	85.9%
18	府大	月4	現代社会と心	174	41	124	7	172	27.9%	98.9%
19	医大	月4	現代正義論（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	3	4	0	7	100.0%	23.3%
20	医大	月4	現代医療の人間観	99	4	2	19	25	24.0%	25.3%
21	機構	月4	プレゼンテーション力とは（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	11	17	1	29	100.0%	96.7%
22	機構	月4	京都の防災と府民	120	24	56	1	81	100.0%	67.5%
23	工織大	月5	西洋文化論	174	12	33	3	48	75.0%	27.6%
24	工織大	月5	京の意匠	174	92	50	5	147	37.4%	84.5%
25	工織大	月5	経済学入門	120	19	6	3	28	32.1%	23.3%
26	工織大	月5	化学概論Ⅱ	99	7	3	0	10	30.0%	10.1%
27	工織大	月5	生物学概論Ⅱ	99	16	32	2	50	68.0%	50.5%
28	府大	月5	生活と経済	99	39	40	3	82	51.2%	82.8%
29	府大	月5	京都の農林業	196	43	114	1	158	27.8%	80.6%
30	医大	月5	宗教と文化	120	5	12	0	17	100.0%	14.2%
31	機構	月5	京都の文化と文化財	120	15	15	5	35	100.0%	29.2%
32	機構	月5	社会科学の学び方（リベラルアーツ・ゼミナール）	30	2	4	2	8	100.0%	26.7%
			合計	3,623	823	1,237	129	2,189	45.2%	60.4%

(注) 交流率：科目提供大学以外の大学の履修者数をその科目の全履修者数で割った値。

クォーター科目の内訳

提供大学	開講コース	科目名	履修定員	履修者数				交流率	履修率
				工織大	府大	医大	合計		
医大	月3	医学概論Ⅰ（3Q）	99	6	18	14	38	63.2%	38.4%
医大	月3	医学概論Ⅱ（4Q）	99	5	18	10	33	69.7%	33.3%

(2) 令和7年度の教育IRセンターからの報告

①クォーター科目の検証

京都三大学教養教育研究・推進機構 教育IRセンター長／京都工芸繊維大学 教授
磯崎 泰樹

本稿では、3種類6科目のクォーター制（以下、Q制と呼ぶ）の学生アンケートの結果を報告する。

質問項目は、前半のQの履修者に対しては、1回あたりの平均的な教室外学習時間、受講形式がQ制かS制か、その科目を受講した理由、Q制でよかったことと困ったこと、（今後府立大にもQ制が導入されると仮定し）Q制とS制のどちらが良いか、その理由を自由記述することを求め、最後に科目の感想をたずねた。後半のQの履修者に対しては、大多数の学生が前半からの継続者だったので、前半を履修しなかった少数の学生のみを対象とし、後半のQのみを履修した理由と前半の空き時間の活用状況を質問した。統計数字は、本稿につづく表に示す。

科目の内容と履修形態について

アンケートの対象科目は昨年と同じ顔ぶれの3種類（Q制で数えるならば6科目）で、前期の人と自然と数学 α IとII、科学史IとII、後期の医学概論IとIIである。府大の学生はS制の科目としてIとIIを連結した科目を履修するいっぽう、医大と工繊大の学生はQ制の科目として履修する。

二つのQの履修者数と昨年との比較

3種類の科目に共通して言えることは、教室に来た学生の約95%がS制同然の履修をしていることである。残りの数少ない学生は片方のQだけを履修している。

人と自然と数学 α I IIの定員は174名であるが、昨年同様に希望者が殺到した。配分定員より希望者が少ない府大と医大の学生は、抽籤を経ることなく、全員が履修できたが、工繊大の学生には抽籤が発生した。両方のQを希望する学生は、

両方とも当選するか落選する方式である。余った定員の再配分により、片方のQのみ履修を許される学生が発生し、S制同然に両方のQを履修をした学生が160名、1Qのみが11名、2Qのみが8名になった。1Q2Qとも、府大生が3名、医大生が約7名だった。所属大学の構成は、昨年と比べて府大生が3分の1に減り、医大生が1名から激増した。小さい母集団にありがちな統計的不安定さのようである。

科学史I IIでは、両方のQを履修した学生が77名、1Qのみが4名、2Qのみが1名だった。1Q2Qとも、府大生が7名、医大生はゼロだった。所属大学の構成は、昨年と似ている。

医学概論I IIでは、両方のQを履修した学生が昨年より倍増し33名、3Qのみが5名、4Qのみが2名だった。3Q4Qとも、工繊大生が約6名、府大生が18名、医大生が約14名だった。所属大学の構成は、昨年と比べて工繊大生が半減し、府大生が4倍に増え、医大生がゼロから激増し「医学の科目に医大生が居ない」不自然な状況は、今年解消された。

前半のQの学生アンケート

1Qと3Qの科目について、全科目のアンケートとは別に、Googleフォームを利用したアンケートを行った。質問項目は、「所属大学」「学年」「出席状況」「その科目の授業外学習時間」「受講した理由」「Q制開講とS制開講のどちらが良いか」である。

学生の行動を見れば両方のQを履修した人が約95%で、あたかもS制の科目を望んでいるようである。しかしアンケートの回答を見るとQ制賛成派が意外に多く、前期の2種類4科目の学生のうち3割～4割、後期（医学概論）の学

生のうち6割にのぼる。この謎を、アンケートの文章記入欄から読み解いて解釈すれば、短期間で勉強が区切られることに賛同したようだった。賛成派の中では、「だらだらせず、モチベーションを保ちやすい」「多くの授業を選べる」「課題提出を忘れたときの打撃が小さいだろう」「1Qを中断した場合にも2Qで復帰できるのではないか」があった。

3・4回生では「奇数単位を調節できる」「4回生の2Qから卒研にさく時間を増やしたい」ので、短期間での1単位修得がありがたいという意見があった。「短期間」という言葉の意味付けが、回生により異なっていた。

反対派の人数が、賛成派より多いことは、行動から判断すれば当然と言える。理由としてあがった点は、「S制のほうが授業に集中できる」「片方のQだけ抽籤に当たったので、他方のQの枠に空きが生じたかどうかを調べるために何度もパソコンに向かった」「セメスターをとおして教えている科目を、Qに分割する意味は無い」などがあつた。

後半のQのみを履修した学生へのアンケート

前述のアンケートから漏れた学生とは、後半のQの履修者である。人と自然と数学 a Ⅱでは8名、科学史Ⅱでは1名、後期の医学概論Ⅱでは2名いたが、人と自然と数学 a Ⅱの3名からのアンケート回答を得た。後半のみ履修した理由は、1名が前半は抽籤で落ちたこと、2名が知りたいトピックがある（人と自然と数学 a Ⅱに円周率が含まれるからと推察する）ことだった。1Qの対応する時間帯には、他の重要な活動を組んでおらず、「空きコマが2Qには無くなってよかった」と答えた。その他の意見欄には「Q制自体が不要」「2Q

のみを履修する学生は1Q末より重たいレポートを書かねばならない」とあつた。

令和8年度へ向けて

人と自然と数学 a は、数学というキーワードが府大生と医大生に避けられたかもしれないが、数学史に対する興味を共有できるはずであるから、文系の学生にも薦めたい。

科学史のシラバスに「客観性の歴史」とあるのが学生を怖がらせたいらしいが、心理的障壁を乗り越え履修した学生は、授業の感想として、内容が興味深く、教員も面白いと答えた。履修定員に余裕があるので、履修者募集のためのシラバス記述が有意義だと思われる。たとえば難しそうな事を目立たないところに書き、学生の反応が良かった週のキーワードを前面に出すことはできないだろうか。

医学概論では、医大生が1名以下だった令和6年が異常事態だった（令和5年は10名）が、今年は14名となった。医学を学ぶ若者が戻ってきた感がある。令和8年は医大の選択必修科目となるらしいが、工織大と府大の学生にも、専門性に深入りせず十数名の先生方から教えてもらえる同科目は、おすすめであり、配分定員いっぱいまで履修してもらいたい。

第1部 教養教育共同化の展開

(2) 令和7年度の教育IRセンターからの報告 ①クォーター科目の検証

令和7年度クォーター制実施科目に関する統計

※人と自然と数学aは、「数学a」と略して記載

1 令和7年度 クォーター科目の登録状況

単位：人

科目	履修定員	履修登録者数				交流率	履修率
		工織大	府大	医大	合計		
科学史(1Q)	120	74	7	0	81	8.6%	67.5%
科学史(2Q)	120	71	7	0	78	9.0%	65.0%
数学α(1Q)	174	161	3	7	171	5.8%	98.3%
数学α(2Q)	174	159	3	6	168	5.4%	96.6%
医学概論(3Q)	99	6	18	14	38	63.2%	38.4%
医学概論(4Q)	99	5	18	12	35	69.7%	33.3%
計	786	476	56	39	571		

※府大については、クォーター制とみなした場合の数値

2 受講回生の分布

単位：人

	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生以上	計
科学史1Q	64	2	7	8	0	81
科学史2Q	64	2	6	6	0	78
計	128	4	13	14	0	159
数学α1Q	153	4	6	6	2	171
数学α2Q	151	5	6	5	1	168
計	304	9	12	11	3	339
医学概論3Q	29	7	1	1	0	38
医学概論4Q	26	6	1	2	0	35
計	55	13	2	3	0	73
3教科 (6科目)	487 (85%)	26 (5%)	27 (5%)	28 (5%)	3 (0%)	571 (100%)

3 履修登録者数等の推移(定員、履修登録者数、交流率、履修率)

単位：人

	年度	定員	履修登録者数	交流率	履修率
科学史 (1Q)	5年度	174	156	5.8%	89.7%
	6年度	174	90	10.0%	51.7%
	7年度	120	81	8.6%	67.5%
数学α (1Q)	5年度	174	162	5.6%	93.1%
	6年度	174	172	7.0%	98.9%
	7年度	174	171	5.8%	98.3%
医学概論 (3Q)	5年度	99	30	66.7%	30.3%
	6年度	99	20	95.0%	20.2%
	7年度	99	38	63.2%	38.4%

4 各大学における履修登録者数の昨年度との比較

単位：人

	年度	工織大	府大	医大	合計	参考(定員)
科学史 (1Q)	5年度	147	9	0	156	174
	6年度	81	9	0	90	174
	7年度	74	7	0	81	120
数学α (1Q)	5年度	153	7	2	162	174
	6年度	160	11	1	172	174
	7年度	161	3	7	171	174
医学概論 (3Q)	5年度	14	6	10	30	99
	6年度	14	5	1	20	99
	7年度	6	18	14	38	99

5 クォーター毎の履修登録者数の状況

単位：人

	1.2Q又は3.4Q	1又は3Qのみ	2又は4Qのみ	実人数
科学史	77	4	1	82
数学α	160	11	8	179
医学概論	33	5	2	40
計	270 (90%)	20 (7%)	11 (4%)	301 (100%)

6 学生アンケートの状況（令和7年5月20日～12月1日実施、N=290、n=215）

■クォーター制の当該科目を受講した理由（n=197：工織大、医大生の上に質問、複数回答） 単位：人

	受たい科目	短期で単位取得	集中して学修
科学史（1Q）	32	16	6
数学α（1Q）	110	24	23
医学概論（3Q）	4	2	0
計	146 (74%)	42 (21%)	29 (15%)

■クォーター制とセメスター制のどちらの開講が良いか
（府大生の場合は今後クォーター制が導入されたと仮定）

単位：人

	クォーター	セメスター	計
科学史（1Q）	16(27%)	44(73%)	60(100%)
数学α（1Q）	58(42%)	81(58%)	139(100%)
医学概論（3Q）	9(56%)	7(44%)	16(100%)
計	83(39%)	132(61%)	215(100%)

□昨年度比較1

	年度（試行科目）	クォーターが良い	セメスターが良い
試行科目全体 （1Q・3Q）	5年度（科学史1Q、数学α1Q、日本近現代文学3Q）	33%	67%
	6年度（科学史1Q、数学α1Q、医学概論3Q）	37%	63%
	7年度（科学史1Q、数学α1Q、医学概論3Q）	39%	61%

□昨年度比較2

	年度	クォーターが良い	セメスターが良い
科学史（1Q）	5年度	47%	53%
	6年度	39%	61%
	7年度	27%	73%
数学α（1Q）	5年度	24%	76%
	6年度	32%	68%
	7年度	42%	58%
医学概論（3Q）	6年度	85%	15%
	7年度	56%	44%

(2) 令和7年度の教育IRセンターからの報告

②共同化科目担当者会議

京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員／京都府立医科大学 教授
高西 陽一

2025年9月26日午後に、令和7年度共同化科目担当者会議（FD研修）がZoomによるオンライン会議として開催された。今回は「データサイエンス及びAI教育について」と題し、昨今急速に発展しているAIも含めたデータサイエンス教育が各大学でどう具体的に行われているか、また現状の課題は何であるのかについて、実際に講義されている2大学の先生お二方にご講演して頂いた。

京都三大学教養教育研究・推進機構運営委員長でおられる京都府立大学副学長の山口先生の挨拶に続いて、今年もコーディネーターである京都三大学教養教育研究・推進機構教育IRセンター長である、京都工芸繊維大学の磯崎先生から、導入として数理・データサイエンス・AI教育の認証制度への工織大の対応状況について、説明がなされた。以前から各大学でも情報教育がなされてはいたが、昨今の急速な生成AIの発展により、大学教育を根本的に考え直す必要が出てきた。政府も文科省が大学教育プログラムに認定制度を設け、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定制度の中の一歩初期段階である、リテラシーレベルを文系理系問わず全ての学生が履修可能な科目を設定するよう全国全ての大学に求めることになった。工織大では各学部で教育を行っていたが、このリテラシーレベル認証を受けるために、基準を統一し令和4年度から実施し、令和5年度に認証を受けているとのことである。

このようなリテラシーレベル認定を受けた大学が令和6年8月の時点で493校、さらに進んだ応用基礎レベル（主に理系）認定を部分的にでも受けた大学は166校あり、工織大も本年に内定を受けている。リテラシーレベルにはコンピュータウィルスや情報漏洩の怖さやデータ利用の利点などの文系でも理解容易なレベルの他にデータに

関する数学的な基礎、アルゴリズムの基礎も含まれており、これを文系学生にも教える教官の困難さは想像に難くない。この意識の基に意見交換を行うのが本会議の趣旨であるとのことであった。

続いて工織大の電子システム系の高井伸和教授に「電気電子工学系でのAI・データサイエンス教育の実例」と題してご講演頂いた。先生はご自身の研究であるアンブ設計の中でいいアルゴリズムがないかと考えGoogleのアプリの公開ライブラリを使いニューラルネットワークを用いた成果を発表、その発表時期と世間のAIのブームがマッチして回路設計にAIをツールとして使う研究へと発展させたとのことであった。

現在は3年生向けにAI・データサイエンス基礎という講義を担当、バリバリのアルゴリズムを扱う講義なので、一番大変な点はやはりどのレベルの学生に焦点を当てて行くかということであったらしい。この点については、初学者向けの講義の中にも応用的な内容をちりばめ、多少知識のあるものにも興味を持たれる工夫を行っているとのことである。またこれまでの経験からAIを学ぶ上での必須知識がニューラルネットワークであると信念をもち、講義しているとのこと、ほとんどのAIではニューラルネットワークが使われており、これを理解できれば他のアルゴリズムの理解に応用できると考え授業設計しているとのことであった。小職も必要に迫られると簡単なプログラムを複数のソフトで組むことはあるが、基本的なアルゴリズムに大きな違いがないことを実感している、すごく賛同できるお話しであった。その後Google Collaborationを用いたpythonの基礎からデータ処理、いくつかのアルゴリズムとニューラルネットワークの基礎、AIの実例として強化学習や応用内容など、実際の講義の内容をいくつか紹介され、何か一つでも新しいこと得

たと実感できるように、また将来の研究でつかえるようにとの思いを述べて講演を閉められた。この点はどの教科でもあてはまる、小職も含め多くの教官の共通認識だと感じた。

続いて京都府立医科大学生命基礎数理学（数学教室）の吉井健悟教授に「医学基盤教育におけるAI・情報リテラシー教育の実践と課題」と題し、1年生向けの情報リテラシーの講義に関するご講演を頂いた。京都府立医大では卒業までに身につけておく医学教育モデル・コア・カリキュラムがあり、令和4年度の改訂で情報・科学技術を活かす能力という項目が加わっており、情報・科学技術の取り扱いに関する倫理観の理解、医学研究・医療に必要な情報科学技術の基本理論の理解、ICTツールの実践スキル習得などが含まれており、具体的に学習事例に情報リテラシーが含まれている。先生は医学基盤教育の情報リテラシーにおいてAI教育をどう含めるかを考えながら進めているらしい。総務省が掲げる情報リテラシーには5つの能力領域があり、コマ数の限られた中で何処を重視しているかが悩ましいらしい。これまではインターネット上の行動や情報セキュリティが主であったが、生成AIの登場・発展により、AIの理解、AIコピー問題やフェイク情報などに関して守るべき行動規範や社会全体への良いあり方を考える教育とは何かを考えて進めているとのことであった。

京都府立医科大でも数理・データサイエンス・AI教育プログラムのリテラシーレベルの来年度の認証を目指し本年度から対策・準備を進めているとのこと、情報リテラシーについては新たにAI・データサイエンス基礎の項目を追加することで対応可能との見解であった。またこのAI・データサイエンス基礎の組み立てに関しては、磯崎先生のご指導と工織大のAI・データサイエンス

Iの教材などを参考にしているとのこと、3大学連携の効果がここにも現れているようである。

医学部1年生向けであるためプログラム実装はハードルが高い一方、学生の高い数学的基礎力を考慮し、専門的に偏らない様なChatGPTとR言語を用いた中国の人口予測に関するプログラミングの講義例が紹介された。こちらも工織大と同様アルゴリズムの理解まで到達しなくてもその大切さを実感できる内容で、また同時にChatGPTを利用したプログラミング学習のメリット・デメリットの紹介もされた。

最後に教育現場での課題として、AIと学生、教員の三者間の信頼関係、二者間での性質の異なる問題点を指摘された。特に学修者の側面として、AI経験が中途半端な人ほどAIを過信しやすい傾向がありその対策が、一方教育者の側面としては今後AIエージェントの活用の増加が予想されるが、どこまで活用していいのかが課題で、ガイドライン作成の必要があるとのこと、学生への体系的な教育プログラム提供を三大学連携で行われればとのお考えももたれていた。

意見交換では、やはり文系への対策が一番の課題と感じられ、文系の教員から生成AIでの作成レポートの対策や、留学生に対しての日本語の学習効果や日本人と同じ対策でいいのかなど、教員の抱えている課題がいくつか挙げられた。なかには（大変な労力であるが）教員のスキルを活かしてAIのインプットを見抜き丁寧な指摘で学生に無意識に理解させる教員の方もいらしたが、様々な分野による利用の違いもあり、明確な回答が難しく課題の複雑さを個人的には感じた。

最後になりましたが、非常に貴重なご講演を頂いたお二方の先生に感謝を申し上げて報告を終わりたいと思います。

(2) 令和7年度の教育IRセンターからの報告

③令和7年度アンケート結果

京都三大学教養教育研究・推進機構 教育IRセンター長／京都工芸繊維大学 教授

磯崎 泰樹

本稿の目的について

全ての開講科目についてのアンケートを、昨年度と同じ質問項目を用いて行った結果、履修登録のべ4850名のうち1795名から回答を得て、授業における学習成果・達成感・経験の質を問う「授業の感想」の細目15項目において昨年度とほぼ同じ傾向を示す結果となったことと、回答ポイント平均（5つの選択肢それぞれを、強くそう思うなら5点、全くそう思わないなら1点、のように点数化したときの平均点）がわずかに上昇した項目があったことを報告する。

なお、本稿執筆時点では後期のアンケート情報が得られていないため、報告内容は前期データに基づく分析である。

質問項目の内容について

質問1では所属大学と、大学ごとに異なる組織名である学部・学科・課程をたずねた。

質問2では学年を、質問3では出席状況を、質問4では時間外学習時間を、質問5ではシラバスの理解度・シラバスと授業実態との一致を、質問6では対面授業かオンライン授業かをたずねた。「(質問7)」の(1)～(15)は授業の感想である。

項目それぞれの結果について

質問1について、授業アンケートの回答者数を学部・学科・課程という細分ごとに調べると、昨年と比べて3割以上の増減がある細分が見られた。3つの大学全体での回答者数は、昨年の1割減だった。質問2では、回答者数が2回生で4割減少し、3回生で7割増加した。

質問3から6でも、もちろん全体での回答者数は昨年の1割減であるが、回答ポイント平均

で見れば、出席・学習時間・シラバス一致性・対面授業中心の4つとも、昨年とほぼ同じ状況だった。

質問5では、授業とシラバスの一致を問うたが、昨年同様、大多数の学生（1,530人、85%）が「シラバスの内容はよく理解でき、授業と一致していた」と回答した。他方7%の学生が「シラバスの内容はよく理解でき、授業とあまり一致していなかった」と回答した。どんなアンケートでも反対のことを述べる人がいるものであり、むしろ85%という数字が教育全体をよくあらわしていると考えべきだが、7%という数字を少しでも減らすことを考えるならば、「学生の理解状況に応じて進度を調整するが・・・」等の文言をもっと目につくように、毎週の内容の欄にもちりばめることが勧められる。昨年よりも改善した箇所は「シラバスの内容があまり理解できず参考にならなかった」という選択肢の人数であり、半減（22人、1%）した。

質問6では昨年同様に、8割の学生が「対面授業中心」と回答した。

質問7では多くの項目において回答ポイント平均が、わずかに上昇した。

質問7の細目の(11)「所属等が異なる学生間の交流の機会が得られた」について

三大学機構の特色は複数の大学にまたがる教育プログラムであるから、文理の多数の学部から学生が集まり交流することは存在意義にもかわることである。例年、(1)～(14)で回答ポイント平均がいつも最低なのが(11)だった。R4年前期からR6年度前期までの回答ポイント平均が2.37、2.73、2.91と推移していた折、R7年前期は3.10に上昇を続けた点を特記したい。

第1部 教養教育共同化の展開

(2) 令和7年度の教育IRセンターからの報告 ③令和7年度アンケート結果

授業アンケート

2025年度 前期

履修登録者数:4850名 回答者数:1795名 (回答率:37.0%(6年度前期は40.6%))

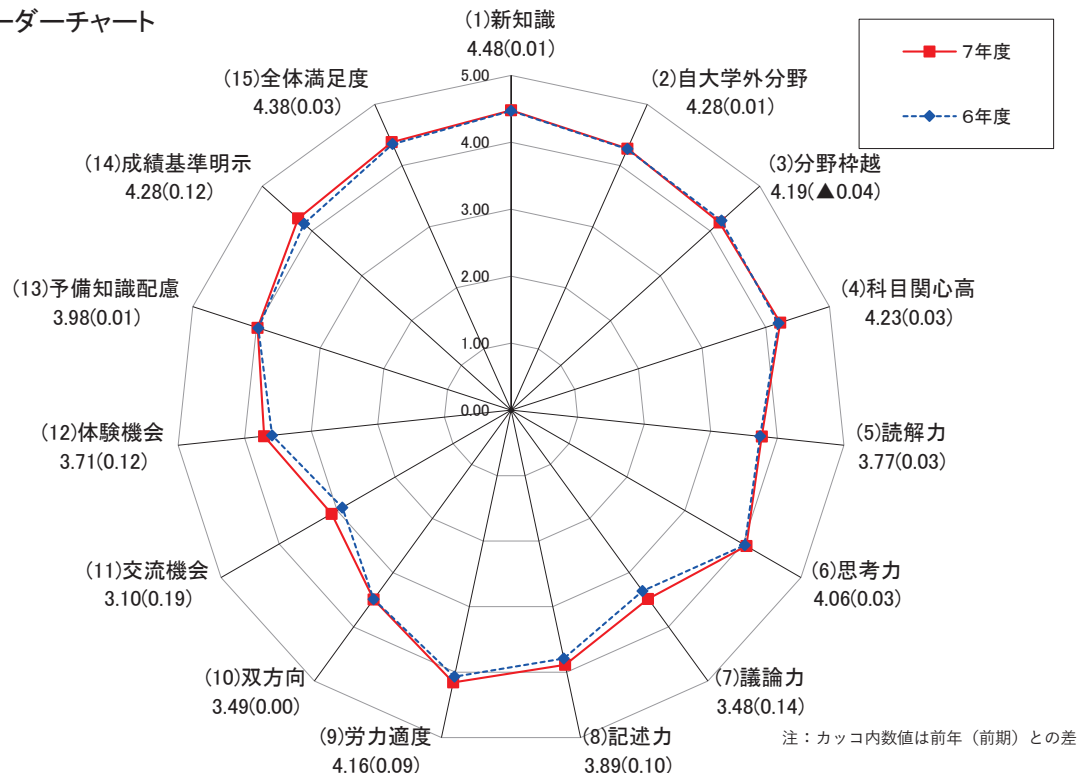
1	所属	京都府立大学					京都工芸繊維大学		
		文学部	公共政策学部	農学食科学部	生命理工情報学部	環境科学部	生命環境学部	応用生物学課程	応用化学課程
		111	123	123	40	70	13	99	341
		京都工芸繊維大学				京都府立医科大学		その他	
		電子システム工学課程	情報工学課程	機械工学課程	デザイン・建築学課程	その他	医学科	看護学科	0
		99	127	194	274	0	47	134	

2	学年	1回生	2回生	3回生	4回生	その他
		1480	150	117	44	4

設問No	設問文	4	3	2	1	7年度 前期 平均	6年度 前期 平均	差
3	この科目の出席状況をお答えください。 4. ほぼ全て出席した(12回以上・クォーター科目の場合は6回以上) 3. かなり出席した(9~11回・クォーター科目の場合は5~6回) 2. あまり出席しなかった(5~8回・クォーター科目の場合は3~4回) 1. ほとんど出席しなかった(4回以下・クォーター科目の場合は2回以下)	1562	193	29	11	3.84	3.82	0.02
4	この科目の授業時間外学習(予習・復習・課題やレポートの作成及びそのための調査、資料収集、グループでのディスカッション等)をどの程度実行していますか。 1回あたりの平均時間でお答えください。	225	379	558	633	2.11	2.03	0.08
5	授業とシラバス(授業計画)は一致していましたか。 4. シラバスの内容がよく理解でき、授業内容と一致していた。3. シラバスの内容は理解できたが、授業内容とあまり一致していなかった。2. シラバスの内容があまり理解できず、参考にならなかった。1. 読んでいない。	1530	129	22	114	3.71	3.60	0.11
6	この科目の授業形態をお答えください。 3. 対面授業とオンライン授業が同程度		1432	267	96			

設問No	設問文	5	4	3	2	1	7年度 前期 平均	6年度 前期 平均	差
7	この科目を受講してどのような感想を持ちましたか。	強く そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
(1)	大学に入る以前には知らなかった事柄に関する知識や理解を得た。	1020	665	71	27	12	4.48	4.47	0.01
(2)	自大学では接する機会のない分野の内容を学ぶことができた。	975	517	157	117	29	4.28	4.27	0.01
(3)	分野の枠を越えた考え方や事柄のつながりを知った。	770	721	194	93	17	4.19	4.23	▲0.04
(4)	科目関連の分野に対する興味や関心が高まった。	810	721	156	79	29	4.23	4.20	0.03
(5)	資料や文献などの文書を調べ読解する力を養うことができた。	509	673	346	218	49	3.77	3.74	0.03
(6)	自ら思考・考察する力を養うことができた。	635	799	218	118	25	4.06	4.03	0.03
(7)	意見を述べたり議論を行ったりする力を養うことができた。	437	578	341	293	146	3.48	3.34	0.14
(8)	報告書などをまとめ、記述する力を養うことができた。	547	767	262	171	48	3.89	3.79	0.10
(9)	要求される学習時間や労力が適度であった。	747	714	235	68	31	4.16	4.07	0.09
(10)	教員との間で双方向的なやりとりがあった。	431	557	397	288	122	3.49	3.49	0.00
(11)	所属等が異なる学生間の交流の機会が得られた。	433	390	246	368	358	3.10	2.91	0.19
(12)	受講者それぞれが実行・体験する内容が含まれていた。	577	575	314	201	128	3.71	3.59	0.12
(13)	受講者による予備知識の違いが配慮されていた。	640	693	289	132	41	3.98	3.97	0.01
(14)	成績評価の方法や合格の基準が明示されていた。	890	639	166	76	24	4.28	4.16	0.12
(15)	全体としてこの授業が満足であった。	941	673	125	38	18	4.38	4.35	0.03

問7 レーダーチャート



(3) 令和7年度のリベラルアーツセンターからの報告

京都三大学教養教育研究・推進機構 リベラルアーツセンター長／京都府立大学 准教授
阿部 拓児

三大学の教養教育科目の共同化は平成26年に開始され、令和7年度には満12年を経過した。人間にたとえるなら、ちょうど一回りし、めでたく年男（年女？）を迎えたことになる。

- 1) 令和7年度のカリキュラム構成（科目）の考え方
- 2) カリキュラム改訂に向けての課題
- 3) 授業評価に関する課題

1) 令和7年度のカリキュラム構成（科目）の考え方

まずは例年通り、科目数の増減から報告する。令和7年度は、合計79科目を用意した。昨年度に用意された科目数は78科目であったため、1科目増えたことになる。この増加は、昨年度に一時休止していた「法学」が復活したことによる。一方で、昨年度まで開講されていた「食経営学」は取り下げられたが、新たに「食ブランディング論」が開講された。科目内容を刷新するとともに、学生にとって、よりとっつきやすい科目へとリニューアルが図られている。

三大学共同化科目の売りの一つが、リベラルアーツ・ゼミナールである。リベラルアーツ・ゼミナールは、学生同士が交流し、共通のテーマで対話、議論する力をはぐくむことを目的とした、少人数制のゼミである。本年度から「人と自然と数学β」がゼミナール化され、新たにラインナップに加わった。また、「資料で京都（旧：資料で親しむ京都学）」および「時事問題で学ぶファシリテーション」が、ともに学期開講科目から、夏季集中科目へと変更された。これにより、学生にとって、より授業に集中しやすい提供形態となった。

クォーター制で開講される科目については、昨年度から継続され、新たな変更は見られない。京

都府立大学にクォーター制の制度的な位置づけがされていないことから、学生の立場から見ると履修しにくい科目となっているというデメリットは、依然として解消されていない。この点については、今後も引き続き検討・議論が必要である。

2) カリキュラム改訂に向けての課題

昨年度の報告書でも指摘したが、履修率における前期・後期のアンバランスは、今年度においてよりいっそう顕著に表れる結果となった。以下に、議論の根拠となるデータを提示する。

履修希望者数が履修定員数を上回った科目数は、前期13科目（39科目中）、夏期集中講義7科目（8科目中）、後期2科目（32科目中）である。

また、履修希望者数と履修定員数の関係（履修希望者数／履修定員数）は、前期4382／4683、夏期集中1943／919、後期2236／3623となっている。

夏期集中科目については、開講形態の特性上、単純な比較が難しいため、ここでは措くこととする。前期の履修率（定員に対する履修者数の割合）が84.1%であるのに対し、後期の履修率は60.4%にとどまり、24ポイント近くの差が生じている。この数値は、前期の科目数が不足気味である一方で、後期の科目数が供給過剰にあるという現状を示している。

このような不均衡が生じる理由として、学生が前期にできるだけ多くの教養科目を履修し、単位を修得しようとする一方で、後期には三大学共同化科目以外の授業（各学部・学科の専門科目）を履修する傾向にあることが挙げられる。すなわち、この不均衡は、各学部・学科のカリキュラムに起因する問題と推察される。

抜本的な解決策として、現在後期に開講されて

いる科目を前期に移動させることが考えられるが、担当教員の都合に加え、教室確保という課題もあって、ただちに実施することは現実的ではない。一方で、オンデマンド科目であれば、教室定員に関する制約をある程度緩和できる。今後は、オンデマンド科目をふくむDX化を推進することにより、このアンバランスの解消を図っていきたい。

3) 授業評価に関する課題

今年度の共同化科目担当者会議（FD研修会）は、AIおよびデータサイエンスを教育にどのように活用していくかについて三大学間で共有し、今後の教養教育の在り方を考える契機とした。講演後の意見交換会では、AIを用いて作成されたレポートをどのように評価すべきかについて、参加者間で活発な議論がおこなわれた。近年、ほぼすべての大学教員が、生成AIを用いたレポートに遭遇するという経験を持っているのではなかろうか。実在しないデータや書誌情報に戸惑い、AIによるいわゆるハルシネーションに気づくといった事例も少なくない。

三大学共同化科目は、リベラルアーツ・ゼミナールなど一部の少人数授業をのぞくと、専門科目に比べて、多数の履修者を対象とする。必然、採点・評価の基準も、凝ったものにはしにくい。ところが、「授業内容を〇〇字程度でまとめよ」といったひねりのない課題は、生成AIの格好の標的にされてしまう。生成AIを使用すること自体の是非はともかくとして、生成AIが書いてきたレポートの出来を、そのまま履修者の成績として評価すべきでないことは明らかであろう。

このような時代の変化に対して、各教員はそれぞれが対応を検討していく必要がある。私見ではあるが、生成AIそのものを否定し、一切使用す

べきでないと指導することは、いささか時代の流れに逆行しているように思われる。それよりも、生成AIといかに上手く付き合うべきかを指導していく方が、よほど生産的だろう。

たとえば、生成AIを一切使わずにレポートを書かせたい場合には、対面式の試験会場において、時間内にレポートを作成させる筆記試験を課すなどの工夫が必要であろう。一方で、過去に知った事例として（リレー講義において、他の担当者によって出された課題）、生成AIを用いてレポートを作成すること自体を課題とし、生成された文章ではなく、AIに与えたプロンプト（指示内容）を評価対象とする試みがあった。結果としてその課題を選択した学生はいなかったものの、非常に示唆に富む取り組みとして印象に残っている。

今後、生成AIと成績評価をめぐる議論は一層活発化していくと考えられるが、その前提として、教員一人ひとりが生成AIについて理解を深め、学び続けていくことが求められていると言えよう。

(1) 医学部生と非医学部生の学び合いの場を創る意義 (科目名：医療人類学)

京都府立医科大学 非常勤講師

竹田 響

1. 科目の概要と講義の目的

本科目は、人間が生まれ、そして死ぬという一連のプロセスの中で、「医学的正しさ」だけでは時に捉えることができない人間の振る舞いや葛藤、自己や他者の身体についていかに考えるのか、事例を紹介しながら「医療人類学 (Medical Anthropology)」という学問領域をもとに考察することを目的として開講している。執筆者は今期より本科目を担っている。

講義はパワーポイントを用いた資料、板書に加えて映像資料を活用し、資料を視聴した後はディスカッション、ないしはコメントシートとして自身が考えたことをまとめてもらう構成としている。人間の尊厳や、そもそもヒトはどの瞬間から人間として扱われるのか (生まれた瞬間なのか)、死にどのように向き合うのか、精神「疾患」にどのように向き合うのか、など、私たちの日常生活に絡む事象でありながら、議論をする機会が少ない社会的な事柄を各回の講義で扱っている。

2. 本講義の特徴—医学部生と非医学部生の対話

三大学教養教育共同化科目として開講している本科目の最大の特徴は、医学部生と非医学部生が、人間が社会の中でいかに「病」に向き合い生活しているのか、また自らが属する文化圏とは異なる背景を持つ人びとがどのように日々暮らしを営み、考えているのか、各地に暮らす人びとが日常生活の中で行っている実践を事例として扱いながら、共に考え、共に議論しながら、共に学ぶ点にある。

日本社会では母体から生まれた瞬間から個性を持った人間として扱われる。しかし他の社会に目を向けてみると、例えば生まれたときには赤子は精霊として扱われ、母親が抱きかかえたら人間、抱きかかえなかった場合は精霊として一旦神にお

返しする、という概念が人びとの間で共有されている地域もある。文化圏が異なれば、そこに暮らす人びとの思考やその背景にある規範も異なるわけだが、教室の中でイメージすることはなかなか難しい。そこで実際に映像を通して他の地域に暮らす人びとの事例を紹介した後に、わたしたちが今暮らしている日本社会を考察できるような構成とし、トピック毎に講義を行う形式をとった。

3. ディスカッションを経て

講義のトピックに合わせて医学部生と非医学部生が混在するグループを編成し、映像資料を観た後に感想共有とディスカッションを行う時間をつくった。医学的な知識は言うまでもなく医学部生が長けている一方で、医学的な「正しさ」では捉えきれない人びとの葛藤や、社会の中で医療やケアをどのように考えていくか、といったトピックについては、非医学部生が議論をリードする場面も見られた。双方が意見を述べることで医療従事者としての視点と患者サイドの視点が組み合わさり、地域医療と福祉や精神疾患など、どちらかだけでは不十分な論点の議論を深めることに繋がった。学生からは「わたしとは異なる視点を持って面白かった。」「医学部生と初めて議論した。貴重な機会だった。」など、好評を得た。

4. 今後に向けて

医学部を中心として「医療人類学」の科目は多く開講されているが、医学部生と非医学部生が共に「医療人類学」を受講する、という取り組みは全国的に見ても極めて珍しい。双方の学びが深まるように学生同士の議論の時間を大切にしながら、受講生に地域の医療やケアについて考察してもらう講義を展開していく。

(2) 京の聖地・霊地をいろどる説話伝承をよむ (科目名：京都の文学Ⅱ)

京都府立大学 教授
本井 牧子

1. 京都の霊地・聖地のイメージと伝承

学生にかぎらず、京都らしい場所といわれて清水寺や金閣寺、八坂神社や伏見稲荷、北野天満宮といった社寺を思い浮かべる人は多い。現代人を魅了する京都のイメージは、このような寺社などの宗教的な空間—聖地・霊地—の存在なくしては語るできないだろう。

一方で、そこに寺社がただ存在しているだけでは、その場所に求心力は生まれない。その寺社がどのようにしてその地に草創されたのか、そこでどんなことが起こったのか、どんな利益があるのか、さらにはどんな物語の舞台になったのかといったことが、ことばで語られてはじめて、その寺社の存在は意義をもち、人をひきつけることになる。

本科目は、京都の寺社をはじめとする聖地・霊地をとりあげて、その場所を聖地・霊地たらしめている説話伝承に目を向け、その諸相をみてゆくものである。長い歴史のなかで、積み重ねられ、揺れ動く伝承の生の姿を、古典の原文のなかにさぐることを試みている。

2. ギャップの解消のために

近年、「聖地巡礼」ということばは、映画や漫画、アニメの舞台を巡る意味で使われることも多い。もちろん、宗教的な巡礼から派生した使われ方なのだが、授業内で京都の聖地についてコメントを求めたところ、現代的な意味での回答が寄せられ、担当者の認識とのギャップに驚いたことがある。これは極端な例だが、本科目の受講生には文学や歴史にあまり触れてこなかった学生も含まれることから、教員や学生間のギャップを解消し、どこから説明をはじめめるのかを見極めるために、まずは、舞台となる寺社などについて、受講生の知識・

認識を確認することが欠かせない。

例えば清水寺の場合、清水の舞台や桜、紅葉、産寧坂といった、実景に結びついたものについては多く挙がるものの、いざ、ではご本尊は？との問いかけに答えられる受講生は多くない。観音の寺という、聖地のもっとも本質的な部分については、あまり意識されていないというのが実状のようだ。逆に、こちらがまったく知らないサブカルチャーにおける展開などの情報が寄せられるケースも多く、目を啓かれることもある。

3. オンライン上の地図の利用

場所に注目するからには、立地を確認することも重要だが、これには、古絵図・古地図などと並んで、オンライン上の地図の利用も簡便ながら有効である。清水寺の場所がわからない学生はさすがにほぼいないが、例えば Google Map の航空写真や地形レイヤーで確認することで、鴨川から清水寺までのエリアが、境界という意味合いをもつことが実感できる。さらに、旧五条通（現在の松原通）が清水寺への参詣ルートであったことも一目瞭然である。

現在の地図と平安京とを重ねて見ることができ、平安京オーバーレイマップ（立命館大学 アートリサーチセンター）は、洛中洛外を直感的に把握するのに役立つ。寺社ではないが、聖地・霊地ととらえられる一条戻橋（一条堀川）が、川の彼岸・此岸というだけでなく、洛中・洛外の境界という意味ももつことなども納得できたというコメントが多かった。

4. 絵画資料・動画の利用

現代と前近代とのイメージギャップを埋めるためには、絵画資料などもできるだけ多く示すよう

にしている。清水寺に話を戻すと、「清水寺参詣曼荼羅」(16世紀)という絵画には、五条橋が参詣路の起点として描かれており、一帯が清水寺を中心とするひとつづきの聖地エリアであることがよくわかる。五条橋の上では牛若と弁慶とが刀を交えており、場所と伝承とが緊密に結びついていることもうかがわれる。

能の「橋弁慶」に代表される牛若と弁慶の出会いの伝承は、絵画や芸能、祭礼の作り物など、さまざまなメディアにおいて展開した。祇園祭の橋弁慶山もその一例である。近年は、国内外の博物館・図書館等のデータベースの公開が進み、絵巻や古典籍などの詳細な画像にアクセスできるようになってきている。海外のコレクションに所蔵されている弁慶を主人公とする絵巻の画像や、京都学・歴彩館所蔵の祇園祭の様子を描いた版本の挿絵など、Moodle を介してリンクを共有することで、各自の端末からそれらの画像に直接アクセスすることが容易になり、文字通り、ビジュアルイメージの解像度を上げるのに一役買っている。

芸能にかんしては、コロナ禍を経て、能などの上演動画や解説動画の公開数が飛躍的に増えたことの恩恵は大きい。説話の背景を学んだ上で、能の詞章(台本)を読み込んでから動画を視聴する授業は、アンケートの満足度も高い。

5. 授業の外へ

本科目で目指すことのひとつが、実際に現地を訪れたり、博物館や能楽堂に足を運んだりするといった活動のきっかけになることである。博物館にかんしては、キャンパスメンバーズや京都市キャンパス文化パートナーズ制度などの認知度は思ったよりも高く、積極的に活用している声も一定数聞かれた。授業に直接関連する展示などは可能

な限り紹介し、期末課題に取り入れることなども推奨している。

6. 説話伝承の生のありよう

ここまでさまざまな文字以外のメディアの利用について述べてきたが、本科目で中心となるのは、あくまでも原文で説話伝承をよむことである。その際には、はじめにも述べたように、その伝承が揺れ動く様子もあわせて示している。五条橋の牛若・弁慶伝承は、暴れている弁慶を義経がやりこめるというパターンが有名だが、牛若が千人斬りをしているというパターンも少なくない。二人が戦う場所にしても、五条橋以外に、清水寺や北野天満宮など、多くのバリエーションがある。

どれが「ほんとう」なのかと当惑する声もあるが、歴史的事実を追求するようなよみ方はあまり意味がない(そうなると、どれも「ほんとう」ではないということになってしまう)。むしろ、さまざまなバージョンが、社会状況、宗教的背景、時代の変遷、メディアの違い、記録者や伝承者の意図、制作・出版事情といったさまざまな要因で生み出され、変化し、伝えられ、消えていくという、流動的なありかたこそが、説話伝承のリアルである。ひとつの思いや想像力により、聖地・霊地に現出した無数の説話伝承は、どれも「ほんとう」だといってもよい。ソースを確認した上で、それぞれの伝承を客観視して相対化する、現代のメディアリテラシーとも通じるよみ方を身につける一助となればと思っている。

(3)「京都の文化と文化財」～日々の生活を楽しむ～

京都工芸繊維大学 教授

澤田 美恵子

1. はじめに

本授業は、令和2年度から始まり、今年度で6回目となった。京都の文化財や伝統文化、生活文化、伝統工芸・伝統産業に関する歴史や精神性、保存・継承の取組等を学ぶことを通じて、国際交流において必要な日本文化の基礎的な知識を身につけるとともに、文化財や伝統文化等を継承する意識や、文化を支える人々を思いやり尊重する心、豊かな感性や創造性を涵養することを目的としている。毎回各界の綺羅星のようなゲストスピーカーを迎え、学生一人の力では出会うことができない人の生のお話を直接聞けるというのが大きな魅力である。

2. 授業方法

授業では、まずゲストスピーカーの方からの1時間ほどの講義を受け、その後質疑応答を行い、講義レポートを書くという進行である。担当教員は京都府立大学名誉教授の宗田好史先生、八幡市立松花堂庭園・美術館平井俊行館長と私の3名である。各回の講義には、担当教員が交代で担当・同席し、全体の進行や講義内容へのコメント、質疑応答時のフォロー等を実施している。

本授業が始まった令和2年度はコロナ禍の最中であり、オンラインでの授業の改革が大きく前進した時期と重なり、本授業も初年度からZoomを使って行うこととなった。私が担当する京都の文化や工芸に関する授業ではこのオンラインであるということが、教育や学びに功を奏したと言っても過言ではないと考える。私は本授業で、茶道、華道、香道、能、楽焼、工芸の分野を担当している。能の人間国宝である金剛永謹氏をお迎えする授業は、毎年、金剛能楽堂の能舞台から生中継で、国宝級の面や能衣装を見せて下さる贅沢な講義で

ある。京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の三大学は、今までもこれからも日本のみならず世界で活躍し、海外の人に日本の文化を語れる人材を育成することが肝要である。本授業にも文系、理工系、医学系の専門分野の異なる学生が混在し、多様な視点や価値観を交流して、一緒に学ぶ学修空間が生まれる。というのも、大規模な対面の授業では質疑応答時間が活発になることは日本では珍しいが、オンラインでは百人を超える学生が参加する年度でもチャット機能を使って、学生からの質問を受けることができ、授業の終了時間が迫っても、なお活発な学生から興味深い質問が途切れないという授業となっているからだ。本授業は、私自身も学生から知的な刺激を受け、明日への教育の糧となっている。

3. 公開授業

今年度は、15代吉左衛門・樂直入氏に私が対談させて頂くという授業を10月20日に京都府立京都学・歴彩館大ホールにて、学生以外の市民の皆さんにも公開して楽しんで頂くことができた。





樂直入氏は、1949年生まれ、1973年東京藝術大学彫刻科卒業後、イタリア・ローマに2年間留学に行かれた。この異国の地で裏千家の茶の湯に出逢い、それまで悶々と悩んでいた樂家の代を継ぐことを決心し、帰国された。1981年に父、覚入氏がお亡くなりになり、15代吉左衛門を襲名された。当主の間、国内外で展覧会を行い、樂焼の世界的意味を問い続けられ、国際的な芸術家としても知られる方である。2019年7月には樂家当主を長男に譲り「直入」と改名された。現在は京都の北、小さな山村に単身で移り、作陶に没頭する生活を送っていらっしゃる。

樂家初代長次郎は桃山時代に茶の湯の大成者である千利休に仕え、樂茶碗を創造した人物である。樂茶碗は轆轤を使わず樂家特有の手法である「手捏ね（てづくね）」、すなわち土の塊を板の上で叩き伸ばして、内側に引き締めながら碗の形にし、そこから篋で削り、自らの造形を創っていく。成形された茶碗は内窯という樂家特有の小さな窯に一碗のみ入れて、備長炭に手押し鞆（ふいご）で空気を送り窯の温度を上げて焼成する。そして器が溶岩のようにになっている状態で窯から引き出し、外気で冷やし収縮させると黒い器が生まれる。この黒の茶碗は現代も内窯で一碗ずつしか焼かない。初代長次郎の時代、茶碗は唐物や高麗茶碗が最高

のものとされていた。しかしながら千利休は自らの茶の湯の精神、「侘び」を表す黒あるいは赤のモノトーンの究極にシンプルな形の茶碗を長次郎に創らせた。それは当時、非常に斬新で「今焼」と呼ばれた。この「今焼」の高い精神性と時代に対する反逆の精神は、現代の前衛芸術と呼ばれるものに通じるものがある。直入氏のお茶碗も大胆な篋削りが彫刻のようで、前衛芸術と呼んでも良い存在だ。公開授業ではこういった樂焼の歴史と現代における意味とご自身の考え、イタリアの留学時代の苦悩、そして現代の作品と未来への展望について語って頂いた。

学生の授業の感想の一部を以下に紹介する。

- ・技術が受け継がれてきたことや長い歴史が伝統なのではなく長い年月の中で同じ感受性や感覚を持ち続けていることが伝統だとおっしゃっていて目に見えるものだけでなく同じ感覚を今も昔も共有できることも伝統であるという新たな気づきを得られた。

- ・まず、樂焼の持つ歴史の深さと、男性だけでなく女性も共同で作陶に関わってきたという話が印象に残った。また、直入氏も次代を担うのが女性でも構わないという話をされており、そのような点で、樂焼の伝統に対する捉え方が魅力的に感じた。次に、「長次郎の茶碗は表現を削っている」という言葉に深く納得させられた。美しく見せようとする意識さえ削ぎ落とす姿勢はまさに利休の考えと呼応していると感じた。

- ・表現はとても美しいものです。他者の心を覗く唯一のもので。私は樂直入様の作品の中に確かにあなたの心を見たような気がしました。何かを

他者の心に与えるものこそ、樂茶碗の真髄だと思います。

学生たちは、毎回の授業に真摯に向き合い、またレポートを書くことで、深い学びに達していると、私は評価している。

4. おわりに

さて、荒廃する地球、変動する天候、争いが絶えない世界のなか、明確な未来が見えない。AIは予想を超えて発達し、目指すべき仕事のVisionが定まらない。しかし、私たち人間は生き物であるから、どんな環境のなかにあっても、呼吸をして今日を生き抜かなければ、明日がこない。ならば、学生たちには、今ここの日々を楽しむ知識や知恵を大学生生活で身につけ、明日へと羽ばたいてほしいと願い、授業に臨む。

京都という街には、有形無形の世界遺産が多く存在し、災害や戦争の歴史に耐えてきた文化と文化財がある。学生たちには、この恵まれた環境のなか、どうか深呼吸をするように、学んでほしい。この授業がその芳醇な学びの一助となれば、望外の幸せである。

(4) 体験し、悩み、そして発見する「こころの科学」： 講義室を大きな実験室に変える試み

京都工芸繊維大学 教授
西崎 友規子

京都工芸繊維大学 教授
来田 宣幸

1. はじめに

本講義は前期科目として主に1回生を対象に実施した。受講生の多くは、つい先日まで高校生で、新しい環境に身をおいたばかりの時期である。心理学という学問は言葉としては知っているものの、その内容や大学で何を学ぶのかは必ずしも明確ではなく、「身近そうでありながら、実際にはよくわからない」という印象を持つ学生も少なくない。そのため、講義室に集まる学生たちは、どこか緊張と期待が入り混じり、「何が始まるんだろう？」という素朴なワクワク感が感じられた。そうした知的好奇心に満ちた反応は、教員にとっても新年度の始まりを強く実感させるものであり、専門科目とはまた異なる、一般教養科目ならではの楽しさを伴うものであった。

第1回は、西崎と来田両名による対談形式のオリエンテーションをオンデマンドで実施した。心理学という学問がどのような問いを扱い、どのような方法で人の「こころ」に迫ろうとしているのかを、ふたりの専門や関心の違いを交えながら紹介することを意図した。その後の14回は前半と後半に分け、前半7回を西崎、後半7回を来田が担当した。

西崎と来田はともに実験心理学を基盤にして、モノとのインタラクションやスポーツ場面を対象にした応用的な研究を専門としている。これらの専門性を踏まえ、本講義では心理学の全領域を網羅的に扱うのではなく、認知心理学、社会心理学、感情心理学を主に3つの軸として構成した。心理学をはじめて学ぶ学生であるので、占いや性格診断とは異なり、科学的な方法に基づき人のこころを理解しようとする学問であること、そしてそれが日常生活とも密接につながっていることを体験的に伝えることを、講義全体の基本姿勢とした。

2. 講義の前半回（西崎が担当）

学生が日々の生活の中で意識しやすいトピックを中心に、感情・対人認知・意思決定・知能・個人差といったテーマを扱った。各回の授業では必ず何らかのワークを取り入れ、映像刺激や記憶課題、判断課題などをスライド上で提示した。学生

にはQRコードを通じてスマートフォンやタブレットからGoogleフォームにアクセスしてもらい、その場で回答を集めた。集計結果は即時にスクリーンに投影し、「どのような回答が多かったか」「どのような誤りが生じやすいか」「感じ方にどの程度のばらつきがあるか」を、学生と共有しながら解説を行った。さらに、毎回の授業で提示した課題について、moodle上で小課題として回答を求め、次の授業冒頭でその一部を紹介し、他の学生の考えを共有した。これにより、自分とは異なる視点や解釈に触れる機会を設けた。

このような進め方により、学生は自分一人の感覚や答えだけでは人のこころの仕組みを理解できないこと、複数のデータを比較することで初めて傾向が見えてくることを、体験を通して学ぶことができたと考えられる。受講生は約170名であり、若年層のデータとして一定の規模を持つ結果を即時に可視化できた点は、教育的にも研究的にも示唆に富むものであった。研究者として、学生とともに「データを見る楽しさ」を共有できたことは、授業を担当する側にとっても手応えを感じる経験であった。また、前半7回の授業の中では3回の小テストを実施した。内容は直前の2回分の授業に対応させ、次の回の冒頭15分間を用いて行い、授業資料のみ持ち込み可とした。単なる知識確認ではなく、内容の理解と整理を促すことを目的としたものであり、学生の理解の定着に一定の効果があったと感じている。

3. 講義の後半回（来田が担当）

前半の講義で培った「こころを科学的に捉える視点」を基盤として、後半では、より体験を中心とした具体的な展開として、「人間はいかに間違いやすい生き物であるか」を、学生自身が体験を通して理解することをねらいとした。心理学や脳科学の知識は教科書から学ぶことができる。しかし、講義室で自分が実際に体験することで学ぶ経験は、座学とは異なる深い納得感をもたらす。今年度の授業で行ったいくつかの試みと、そこから見えた学生の反応を紹介したい。

・リアルタイムデータで見る「記憶」の特徴

授業では「記憶のメカニズム」を扱い、古典的な系列位置効果の実験を受講生全員で行った。無関連な語を提示し、直後再生してもらった回答をGoogleフォームで集計し、その場でグラフ化すると、見事なU字型の曲線が現れた。初頭効果と新近効果が明確に示されるように、学生からは驚きの声が上がった。さらに、この結果を幼児のデータと比較し、大人とは異なり初頭効果が見られない図を示した。そこから、リハーサルという記憶方略が発達とともに獲得されること、幼児は「今この瞬間」の情動と結びついて記憶している可能性などについて議論が広がった。

・身体で感じる「学習」と「転移」：鏡像描写実験

次に取り上げたのは「身体の記憶」である。有名なH・M氏の症例（てんかん治療で海馬を切除し、新しいエピソード記憶は作れなくなった事例）を題材にした。学生たちは実際に鏡を手にし、手元を隠して鏡だけを見ながら図形をなぞる「鏡像描写実験」に挑戦してもらった。「絶対に手元を見ないで」「いらいらしても投げ出さないで」と声をかけながらスタートすると、「全然進まない!」「逆に行く!」といった悲鳴に近い声や笑い声があちこちから上がる。

この実験のハイライトは「学習の転移」の検証である。「利き手で練習する群」「非利き手で練習する群」「練習しない群」に分け、一定時間の練習後に反対の手でテストを行った。すると、練習していないはずの手でも、練習した手の効果が「転移」して上手くなっていることが示された。学生たちは自分の手が勝手に学習している運動学習の感覚を味わうことで、「昨日のことは覚えていないけれど、技術だけは上達している」という不思議な感覚を、擬似的に体験することになった。

・「私は間違えない」という自信を崩す：錯覚とヒューマンエラー

中盤では、知覚や判断に潜むエラーを体験的に扱った。盲点の実験では、見えないはずの部分を脳が補完して世界を認識していることを体感し、学生たちは自分の「見る力」の不確かさに驚いていた。また、ウェイソン選択課題では、抽象的な論理課題では誤答が多い一方、日常的な文脈に置

き換えると正解率が大きく向上することを確認した。この体験を通して、「法則を一般化して理解すること」が人間にとって直感に反する難しい作業であることを実感してもらった。さらに、熟練した動作に潜む書字スリップの実験を通じて、ヒューマンエラーが特別な失敗ではなく、誰にでも起こりうる現象であることを示した。

・結論を急がず合意形成する：コンセンサス実習

最終回では、個人の認知から視点を広げ、集団での意思決定を扱った。ここでは「サバイバル課題」と呼ばれるコンセンサス実習を用い、まずは個人で考えた後、グループで話し合い一つの結論を導くワークを行った。ここで課したルールは、「多数決を使わないこと」のみである。「安易に妥協しない」「少数意見を尊重する」という制約の中、初対面の学生同士が15分間議論を交わした。結果として正解数は高くはなかったが、このワークの目的は「正解できなかったけれど、話し尽くしたから納得できた」という感覚を得ることにあった。授業の最後には、「世の中には正解のない問題の方が多く、意思決定では『論理的な正しさ』だけでなく、どれだけ話を聞いてもらえたかという『納得感』や『情』の部分も必要である」と伝えた。科学的な知識を学ぶ授業の締めくくりとして、人間関係や社会における意思決定の難しさと重要性を感じてもらいたかったからである。

4. おわりに

「こころの科学」を通して伝えなかったのは、用語や理論そのものではない。自分の認知や判断が不完全であることを自覚し、その不完全な人間同士が関わることで生じる現象を、客観的かつ温かい視点で捉えることである。学生の授業内の様子やコメントからも、体験型ワーク、定期的な小テスト、授業外課題を組み合わせることは、初年次学生の主体的な理解を促す上で有効であったと考える。

今後も、三大学の学生が分野を越えて「人間という不思議なシステム」を共に探究できる授業空間を育てていきたい。

令和7年度 京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会 委員名簿

令和7年4月

大学名	京都三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会							
	担当副学長		リベラルアーツセンター		教育IRセンター		規約第6条第2項による者	
	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
京都工芸繊維大学	理事・副学長	堀内 淳一	基盤科学系 教授	人見光太郎	センター長 基盤科学系 教授	磯崎 泰樹		
京都府立医科大学	副学長	橋本 直哉	医学生命倫理学 教授（医学基盤 教育部長）	瀬戸山晃一	物質生命基礎科学 教授	高西 陽一	学生部長	武藤 倫弘
京都府立大学	運営委員長 理事・副学長	山口美知代	センター長 文学部歴史学科 准教授	阿部 拓児	公共政策学部 公共政策学科 教授	野田 浩資	看護学科長	吉岡さおり
京都三大学教養教育研究・推進機構							教務部長	長島 啓子
							京都府公立大学法人 三大学連携担当課長	岩子 真也

会議の審議状況

□ 運営委員会 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
令和7年 6月4日（水） 午後4時10分 ～午後5時00分	オンライン会議	【協議・報告等】 (1) 令和6年度決算等について (2) 令和7年度前期教養教育共同化授業の履修登録者の状況について (3) アンケート等の実施について (4) 前期試験について (5) 共同化科目担当会議（FD研修）の実施について (6) 共同化科目の公開について
令和7年 8月1日（金） 午後2時30分 ～午後3時30分	オンライン会議	【協議・報告等】 (1) 後期講義方針について (2) 令和8年度学年暦について (3) 一部科目におけるクォーター制の継続について (4) 令和8年度共同化科目の提供について (5) 令和6年度成績分布調査結果について (6) 令和7年度共同化科目担当会議（FD研修）について
令和7年 11月14日（金） 午後4時10分 ～午後5時00分	オンライン会議	【協議・報告等】 (1) 令和8年度事業計画及び予算について (2) 令和8年度学年暦について (3) 三大学教養教育共同化科目の履修登録者（後期）について (4) 令和8年度の共同化科目について (5) 共同化科目担当会議の実施結果について (6) 後期試験日における教室使用の状況について
令和7年 12月10日（水） ～19日（金）	書面会議	【協議・報告等】 (1) 令和8年度共同化科目について (2) 令和8年度受講案内及び令和7年度報告書の作成について
令和8年 2月27日（金） 午後4時10分 ～午後5時00分	オンライン会議	【協議・報告等】 (1) 令和8年度予算について (2) 令和8年度前期講義方針等について (3) 令和8年度LMS等の覚書改定（期間延長）について (4) 令和8年度受講案内について (5) 令和7年度報告書について (6) 教育IRセンターからの報告

京都三大学教養教育研究・推進機構「授業アンケート (2025)」

このアンケートは、京都三大学教養教育共同化科目を受講する皆さんを対象者として、今後の科目のあり方や、より良い実施方法を探るために行うものです。成績評価には一切関係しません。また、結果の集計・分析に際しては、個人情報保護の観点から細心の注意を払います。

※Ⅰ、Ⅷ以外では、それぞれ該当する番号一つを選んでください

Ⅰ このアンケートに回答する対象の科目名をお答えください。

Ⅱ あなたの所属（以下1～13の区分）をお答えください。

京都府立大学	(1. 文学部, 2. 公共政策学部, 3. 農学食科学部, 4. 生命理工情報学部 5. 環境科学部, 6. 生命環境学部)
京都工芸繊維大学	(7. 応用生物学課程, 8. 応用化学課程, 9. 電子システム工学課程 10. 情報工学課程, 11. 機械工学課程, 12. デザイン・建築学課程, 13. その他)
京都府立医科大学	(14. 医学科, 15. 看護学科) 16. 上記以外 ()

Ⅲ 学年をお答えください。

1. 1回生 2. 2回生 3. 3回生 4. 4回生 5. その他

Ⅳ この科目の出席状況をお答えください。

4. ほぼ全て出席した（12回以上・クォーター科目の場合は6回以上）
3. かなり出席した（9～11回・クォーター科目の場合は5～6回）
2. あまり出席しなかった（5～8回・クォーター科目の場合は3～4回）
1. ほとんど出席しなかった（4回以下・クォーター科目の場合は2回以下）

Ⅴ この科目の授業時間外学習（予習、復習、課題やレポートの作成及びそのための調査、資料収集、グループでのディスカッション等）をどの程度実行していますか。1回あたりの平均時間でお答えください。

4. 120分以上 3. 60分以上 2. 30分以上 1. 30分未満

Ⅵ 授業とシラバス（授業計画）は一致していましたか。

4. シラバスの内容がよく理解でき、授業内容と一致していた 3. シラバスの内容は理解できたが、授業内容とあまり一致していなかった 2. シラバスの内容があまり理解できず、参考にならなかった。 1. 読んでいない

Ⅶ この科目の授業形態をお答えください。

1. 対面授業中心 2. オンライン授業中心 3. 対面授業とオンライン授業が同程度

Ⅷ この科目を受講してどのような感想を持ちましたか。次の各項目について5段階で答えてください。

	5 そ強 うく 思 う	4 そや うや 思 う	3 いも ど 言 え ら な と	2 い う あ ま り な そ	1 思 全 わ く な う
(1) 大学に入る以前には知らなかった事柄に関する知識や理解を得た	5	4	3	2	1
(2) 自大学では接する機会のない分野の内容を学ぶことができた	5	4	3	2	1
(3) 分野の枠を越えた考え方や事柄のつながりを知った	5	4	3	2	1
(4) 科目関連の分野に対する興味や関心が高まった	5	4	3	2	1
(5) 資料や文献などの文書を調べ読解する力を養うことができた	5	4	3	2	1
(6) 自ら思考・考察する力を養うことができた	5	4	3	2	1
(7) 意見を述べたり議論を行ったりする力を養うことができた	5	4	3	2	1
(8) 報告書などをまとめ、記述する力を養うことができた	5	4	3	2	1
(9) 要求される学習時間や労力が適度であった	5	4	3	2	1
(10) 教員との間で双方向的なやりとりがあった	5	4	3	2	1
(11) 所属等が異なる学生間の交流の機会が得られた	5	4	3	2	1
(12) 受講者それぞれが実行・体験する内容が含まれていた	5	4	3	2	1
(13) 受講者による予備知識の違いが配慮されていた	5	4	3	2	1
(14) 成績評価の方法や合格の基準が明示されていた	5	4	3	2	1
(15) 全体としてこの授業が満足であった	5	4	3	2	1

Ⅸ 自由記述欄

京都三大学教養教育研究・推進機構 クォーター科目アンケート

このアンケートは、京都三大学教養教育共同化科目を受講する皆さんを対象者として、今後の科目のあり方や、より良い実施方法を探るために行うものです。担当教員へのフィードバックは、皆さんへの成績公表後に、行うものとしており、皆さんの成績評価には一切関係しません。また、結果の集計・分析に際しては、個人情報保護の観点から細心の注意を払います。

<p>1. 所属の大学、学科、課程を選んでください。 (※プルダウン式で選択)</p>	<p> <input type="checkbox"/> 京都工芸繊維大学 工芸科学部 応用生物学課程 <input type="checkbox"/> 京都工芸繊維大学 工芸科学部 応用化学課程 <input type="checkbox"/> 京都工芸繊維大学 工芸科学部 高分子機能工学課程 <input type="checkbox"/> 京都工芸繊維大学 工芸科学部 物質工学課程 <input type="checkbox"/> 京都工芸繊維大学 工芸科学部 電子システム工学課程 <input type="checkbox"/> 京都工芸繊維大学 工芸科学部 情報工学課程 <input type="checkbox"/> 京都工芸繊維大学 工芸科学部 機械工学課程 <input type="checkbox"/> 京都工芸繊維大学 工芸科学部 デザイン・建築学課程 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 文学部 日本・中国文化学科 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 文学部 国際文化交流学科 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 文学部 歴史学科 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 文学部 日本・中国文学科 (2回生以上) <input type="checkbox"/> 京都府立大学 文学部 欧米言語文化学科 (2回生以上) <input type="checkbox"/> 京都府立大学 文学部 和食文化学科 (2回生以上) <input type="checkbox"/> 京都府立大学 公共政策学部 公共政策学科 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 公共政策学部 福祉社会学科 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 農学食科学部 農学生命科学科 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 農学食科学部 栄養科学科 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 農学食科学部 和食文化科学科 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 生命理工情報学部 生命化学科 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 生命理工情報学部 理工情報学科 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 環境科学部 森林科学科 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 環境科学部 環境デザイン学科 <input type="checkbox"/> 京都府立大学 生命環境学部 生命分子化学科 (2回生以上) <input type="checkbox"/> 京都府立大学 生命環境学部 農学生命科学科 (2回生以上) <input type="checkbox"/> 京都府立大学 生命環境学部 食保健学科 (2回生以上) <input type="checkbox"/> 京都府立大学 生命環境学部 環境・情報科学科 (2回生以上) <input type="checkbox"/> 京都府立大学 生命環境学部 環境デザイン学科 (2回生以上) <input type="checkbox"/> 京都府立大学 生命環境学部 森林科学科 (2回生以上) <input type="checkbox"/> 京都府立医科大学 医学部 医学科 <input type="checkbox"/> 京都府立医科大学 医学部 看護学科 </p>
<p>2. 学年をお答えください。</p>	<p><input type="checkbox"/>1 回生 <input type="checkbox"/>2 回生 <input type="checkbox"/>3 回生 <input type="checkbox"/>4 回生 <input type="checkbox"/>その他</p>
<p>3. この科目の出席状況をお答えください。</p>	<p> <input type="checkbox"/> ほぼ全て出席した (6回以上) <input type="checkbox"/> かなり出席した (4~5回) <input type="checkbox"/> あまり出席しなかった (2~3回) <input type="checkbox"/> ほとんど出席しなかった (1回以下) </p>
<p>4. この科目の授業時間外学習 (予習、復習、情報収集、レポート作成等) がどの程度かについて1回あたりの平均時間でお答えください。</p>	<p><input type="checkbox"/>120分以上 <input type="checkbox"/>60分以上 <input type="checkbox"/>30分以上 <input type="checkbox"/>30分未満</p>
<p>5. 受講形式についてお答えください。</p>	<p> <input type="checkbox"/> ____ (Q) (クォーター制) を受講している (工織大生、医大生) <input type="checkbox"/> ____ (セ) (セメスター制) を受講している (府大生) </p>
<p><工織大生、医大生のみ回答> 6. この科目を受講した理由をお答えください。 (複数回答可)</p>	<p> <input type="checkbox"/> 受けたい科目だったため <input type="checkbox"/> 短期間で単位の取得ができるため <input type="checkbox"/> 集中して学修できると思ったため <input type="checkbox"/> その他 </p>
<p><工織大生、医大生のみ回答> 7. この科目は、クォーター制のため2か月間という短期間で終わる授業となっています。クォーター制で良かったと思った事があればお書きください。(ない場合は、なしと記入してください。)</p>	
<p><工織大生、医大生のみ回答> 8. クォーター制で困ったことがあればお答えください。(ない場合は、なしと記入してください)</p>	
<p>9. 「クォーター制 (1コマ×8回及び試験)、1単位」と「セメスター制 (1コマ×15回及び試験、2単位)」のどちらで開講される方がよいと思いますか。</p>	<p> <input type="checkbox"/> クォーター制で開講される方がよい (府大生の場合は、今後、クォーター制が導入されたと仮定) <input type="checkbox"/> セメスター制で開講される方がよい </p>
<p>10. 上記を選択した理由をお書きください。</p>	
<p>11. この科目の感想について自由にお書きください。</p>	

編 集 :
発 行 :



京都三大学
教養教育研究・推進機構
Institute of Liberal Arts and Sciences

所在地：〒606-0823 京都府京都市左京区下鴨半木町1番5
教養教育共同化施設「稻盛記念会館」内

T E L : 075-703-4925

F A X : 075-703-4979

U R L : <http://kyoto3univ.jp/>

発行日：令和8年3月

デザイン：株式会社 谷印刷所